（様式第１４／委託事業成果報告書の提出について）

委託事業成果報告書の提出について

令和８年３月１日

支出負担行為担当官
文部科学省総合教育政策局長
塩　見　みづ枝　殿

（受託者）住　　所　北海道夕張郡栗山町松風３丁目２５２番地
名称及び　北海道栗山町
代表者名　栗山町長　佐々木　　学

令和７年５月２８日付け令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」に関する成果の報告書を、別添のとおり提出いたします。

令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」に関する

成果報告書

１　委託事業の内容
「専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証」

２　事業名
「福祉・介護分野における中核的人材養成に向けた高専一貫教育プログラム開発・実証事業」

３　分野
福祉【介護人材】

４　代表機関

法　人　名	北海道栗山町
代 表 者 名	栗山町長　佐々木　　学
学　校　名	栗山町立北海道介護福祉学校
所　在　地	北海道夕張郡栗山町字湯地６０番地

北海道栗山町

はじめに

少子高齢社会の進展により、今後も高齢者人口のピークが続くとともに、人口減少が加速化すること見込まれている。介護人材の確保はますます困難となることが予想され、介護福祉士はもとより介護福祉士以外の介護職、さらには多様な担い手や手法で、地域住民が主体となって地域共生社会を構築する必要がある。

本町では早くから高齢社会の到来を見据え、介護の必要性を認識し、昭和６２年の社会福祉士及び介護福祉法に基づく国家資格「介護福祉士」創設を契機に公立の介護福祉士養成校として北海道介護福祉学校を昭和６３年に開校し、福祉のまちづくりを掲げてその充実・深化に努めてきた。

本校が掲げる教育目標に基づき、豊かな人間性や、日々進化する高度な知識・技術に対応できる人材の育成に尽力しており、これまで３０年余に渡り２千２百人以上の卒業生を輩出し、道内各地の介護人材育成に寄与している。

既に本町では介護人材確保に向けた対策を協議する場として、行政（町及び教育委員会）、介護福祉学校、産業界（町内介護事業所等）が連携し、「栗山町介護人材確保連絡会議」等を設置し、課題解決に向けた議論を深めている。

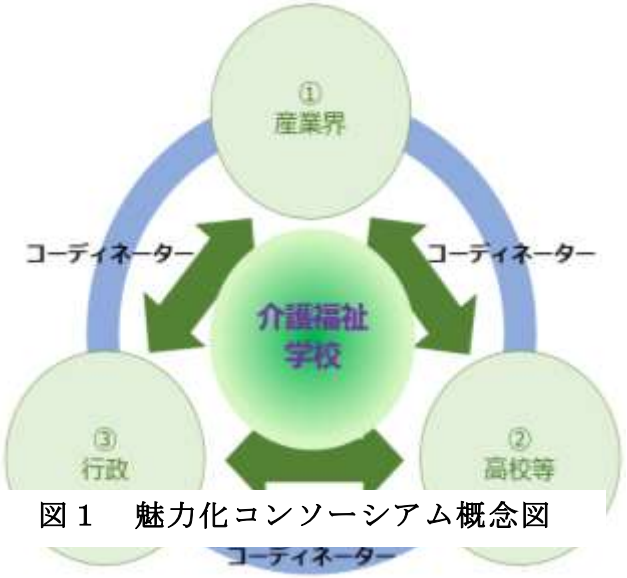


図１　魅力化コンソーシアム概念図

これらを踏まえ、本校の存在意義を発揮し、介護分野においてその中核を担う介護福祉人材を養成するため、新たな教育モデルの開発を目指したいと考え、現在、連携協定を締結している栗山高等学校との連携をより強化・発展させるとともに、行政と産業界が協働し、高・専一貫の教育プログラムの開発に必要な体制として、連携組織「魅力化コンソーシアム（図１）」を構築し、発展的な事業展開を行うとともに、専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発及び実証を目指すものとして、令和４年 10 月３日に本事業にかかる委託契約を締結している。

なお、参画主体・参画レベルは、各分野・地域から人的・物的協力などを得ることでプログラムの実効性や事業の効率性を高め、社会に求められる人材ニーズに基づいた教育プログラムを開発し、産業界とも連携を図り、介護人材確保に資するものとしている。なお、**本事業は令和４年度から受託しており、令和５年度から実証授業を本格的に実施し、継続して令和７年度も実施した。なお、令和６年度以前の詳細内容に関しては、以前の実績報告書を参照されたい。**

１　本町の福祉教育

本町はこれまで「福祉のまちづくり」を掲げてきた。現在、第７次総合計画が策定されているが、まちづくりの合言葉は「ふるさとは栗山です。～みんなが元気なまち～」として、人がつながり元気あふれる人生 100 年を目指している。

本校はこれまでの間、特徴的な取組として、北海道介護福祉学校の専任教員が町内小中高の児童生徒に対して行う「福祉」の学習指導や介護福祉学校の在校生が中心となり町内の小中学校及び北海道栗山高等学校と連携し、義務教育（小学校）における総合学習、土曜授業、また中学生の上級学校訪問等に対応してきた。

栗山高等学校とこれまでの連携協定に基づき、発展的に事業展開を図ることが求められることから選択科目「生活と福祉」への教員派遣と、新たに令和５年度から栗山高校の必修科目となった「栗山と福祉」のカリキュラム作成、授業実施等を実施してきた。なお、「栗山と福祉」の科目が栗山高校において３年間継続の必修科目となったことから、これまでの連携協定に基づくプログラムの課題であった高校２年間の空白、３年生選択科目履修生のみの接点づくりしかできないという課題が解消されることになった。このことにより、小中高等学校の 12 年間を「一つの学び」として捉えること、さらに本校への進学を選択した場合においては計 14 年間、それぞれの発達・成長段階にあわせて系統的に学ぶことができるスキームが出来上がった。そこに生涯学習の視点から地域住民をも巻き込んだ体系（図２参照）が明確になった。

一方、専門教育を受ける介護学生にとっては将来を見据えての「半学半教（造語：学んでいる立場でありながら、教える立場にもなる）」が可能となる。また、小中高等学校の 12 年間を「一つの学び」として捉えた場合、介護学生が次世代のロールモデルにもなり得ることになる。



図２　本町における福祉教育体系のイメージ

今後、これらのイメージ図をもとに、栗山に住むすべての子どもたちが地域の人々との触れ合いや体験活動を通して、「支える・支えられる」「教える・教えられる」という対極の関係ではなく、地域に生きて暮らしている以上、互いを思いやり、助け合い、励まし合いながら、自分たちの住むこの栗山を誇りに感じ、自らがこのまちの担い手としての自覚を持つための教育（人権、権利、尊厳なども含む）、地域共生社会の実践を進めていく必要がある。

これらに加え、今後も少子高齢化と生産年齢層の減少といった人口構造が変化する社会において、地域の持続可能性という課題を視野に入れた「福祉・介護の知識を有する人材」を養成すること、「支える人を支える」地域づくりには意義があること、また高校生等がどのような進路選択をしたとしても「生活する、生きる、地域とつながる」という「福祉と介護の視点」はどのような時代においても必要な視点であることから、本事業の４年目の取り組みになったものである。

２　令和７年度の取り組み

（１）教育プログラムの策定概要

①栗山高校のスクールポリシー

高専連携プログラムを開発するにあたり、令和５年度入学生より**「栗山町の自然や暮らし、介護・福祉に興味関心があり、地域の課題解決に主体的に取り組む生徒」**と一部スクールポリシーが変更になって２年目を迎えている。

②栗山高校における学校設定科目「栗山と福祉」の展開

令和５年度入学生より総合科目「栗山と福祉」が新設となり、必修科目として生徒全員が３年間で計 105 時間学習することになった。令和４年度に検討・作成したカリキュラムに基づき、令和５年度は１学年に対して、令和６年度は１学年及び２学年に実証授業した。またこの間に、３学年に対してのプログラムを机上で作成してきた。そこでの評価反省に基づき修正した令和７年度のプログラムを展開した。特に３学年に関しては、令和４年度に計画したが、それ以降の１および２学年の実績に基づき令和６年度に精査し、プログラムの修正を図った。

このことにより３年間の全体像が見えることになったため、本事業「栗山と福祉」の３年間の全体像を作成した。

この間、授業計画の作成～授業実施～評価～再計画～授業実施～再評価と何度も繰り返し、当該内容の実施時期、協力者のスケジュール等も視野にいれている。あわせて、本事業の３年間で 105 時間という枠に収まりきらない内容も出てきたが、それらに関しては科目横断的な学び、例えば探求の時間や体育（例：障害者が参加できるスポーツ：アダプテッドスポーツ）、さらにはヤングケアラーに関することなどを LHR で対応するなどの高校側の工夫も見られた。これは、平成 26 年度に本校と栗山高等学校が締結した連携協定に基づく授業、選択科目：生活と福祉の授業の一部分を協力してきたという素地があることに起因すると思われる。

なお、今回作成した３年間の全体像は次のとおり（表１）。

大項目	中項目	1年生		2年生		3年生		
		小項目	回数	小項目	回数	小項目	回数	備考
栗山と福祉の全体像	動機付け	オリエンテーション	1	オリエンテーション	1	オリエンテーション	1	
福祉の歴史と取り組み	福祉の歴史	栗山のふくしの歴史	1	ハンセン病の歴史を学ぶ	2			
	制度・政策の理解	栗山の福祉サービス	1					
		自治体の福祉計画	2					
	映画・演芸で触れる福祉	こんな夜更けにバナナかよ (筋ジストロフィー)	2	あん (ハンセン病)	2	父と僕の終わらない歌 (アルツハイマー型認知症)	2	
				講話・演習で学ぶ福祉	2			
人の理解と介護技術	身近な関係の理解と体験 (実態調査を含む)	車椅子で街に出てみよう	4	認知症体験模擬訓練	2	町内会、高齢者宅等を訪問し交流	3	
						プレゼント・準備・制作 交流のための企画・準備	8	選択学習1
	高齢者・障害者理解(概論)			高齢者・障害者理解	1			
	高齢者・障害者の身体の動き	車椅子・歩行介助	2	高齢者疑似体験	2			
	介護技術を身に付ける					介護技術(生活支援技術)	8	選択学習2
	認知症の理解			認知症の理解を深める	1			
				認知症VR体験	2	認知症ケアの実践を理解する	1	
				認知症サポーター養成	2	認知症サポーター養成 (ステップアップ講座)	2	
	障害の理解	視覚障害の理解(盲導犬)	2	発達障害の理解	2			
	コミュニケーション方法	手話講座Ⅰ	2	手話講座Ⅱ	2	手話講座Ⅲ	2	
				コミュニケーション方法	1			
				高齢者とのかかわり体験 (高齢者施設訪問)	2			
	レクリエーションの知識					レクリエーション方法を学ぶ	6	
	障害者のスポーツ	パラスポーツ 車椅子ラグビー	2					
変化する介護機器	介護機器を理解する	福祉機器・介護のICT化	2	車椅子が生まれるまで	1			
		車椅子改良プロジェクト	2					
関連する領域を知る	関連領域の専門性			防災を考えるIBCP	2	地域医療と介護の連携を考える	2	
				住宅環境を考える	2			
キャリア形成	上級学校を理解する	福祉系大学訪問	4	福祉・介護の研究活動を知る	2			
	福祉のキャリア形成	若手介護員の自験例	2	福祉と介護のキャリア形成	2			
	社会問題を考える					ひきこもりと8050問題を考える	1	
学習体験を思考に変える	体験のまとめ	車椅子体験のまとめ	2	高齢者疑似体験のまとめ	1	認知症理解のまとめ	1	
	まちづくり	車椅子ユーザーの視点から	1					
	変化する福祉機器等	介護機器・介護のICT化	1					
	栗山と福祉	栗山と福祉1年次のまとめ	2	栗山と福祉2年次のまとめ	1	栗山と福祉3年間のまとめ	4	
						栗山と福祉:報告会	1	

表１　栗山と福祉３年間の全体像

③「栗山と福祉」のカリキュラム作成（開発したプログラム）

令和４年度に栗山高校と北海道介護福祉学校間で協議を行い作成した「栗山と福祉」の学年別テーマ（表２）を基にした。

１年次カリキュラムに基づき授業を展開した。展開する中でも若干の修正と追加を加えて実施した。

表２　「栗山と福祉」の学年別テーマ

栗山高等学校　総合科目「栗山と福祉」の学習テーマ

【１年次の学習内容】

栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。また、さまざまな活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う。

【２年次の学習内容】

介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める。

【３年次の学習内容】

地域社会の一員として、自らにできることを考え、実践する力を身につける。

表３　「栗山と福祉」１年　カリキュラム　令和６年度作成

【学習テーマ】

栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。また、様々な活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う。

回	月	学習内容	講師・会場等
1	4	オリエンテーション（３年間の流れ）・ポートフォリオ配付	
2・3	4	映画で学ぶ福祉（映画鑑賞）	こんな夜更けにバナナかよ
4	5	出張講義：くりやまの福祉の歴史と今	介護福祉学校
5	5	くりやまの福祉サービス	
6	7	手話講座（手話ソング）	
7	7	手話講座（手話ソング）	
8 9	9	実習）介護福祉学校での介護実習 （車いす介助・歩行介助）	介護福祉学校
10-13	9	合同演習：車いすで街に出てみよう （介護福祉学校学生と合同授業）	介護福祉学校 栗山公園
14・15	9	車いすで町に出てみよう・まとめ	
16	10	出張講義：高齢者とのコミュニケーション	介護福祉学校
17・18	10	施設見学：特養くりのさと 学校見学：介護福祉学校	特養くりのさと 介護福祉学校
19・20	10	実習）介護福祉学校で介護実習 （視覚障害者体験）	介護福祉学校
21・22	11	中途障害、パラスポーツ	
23～28	11	見学）福祉系大学訪問・模擬授業体験	
29・30	12	合同授業　：パラスポーツ体験	介護福祉学校
31・32	12	講演　盲導犬協会	
33	12	事後指導　盲導犬、パラスポ、介護実習等）	
34・35	2	合同授業　福祉・介護の ICT 化を知る 介護機器・ロボット体験	介護福祉学校
36・37	2	発表：車椅子体験・栗山公園のバリアフリー	追加

※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加。計５回の来校授業。

※高校生と介護学生の合同授業も実施。うち２１回及び２２回は地域公開（住民参加）

なお実証授業は講義形式、演習形式、出前授業、合同授業（高校生・専門学校生の合同による授業）の形態で介護福祉学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加している。高校生が専門学校の機能・設備を利用する形で受講した授業（来校授業）は計５回となった。また、高校生と介護学生の合同授業を４回実施した。そのうち１回は地域住民参加型の地域公開として実施することができた。

表４　「栗山と福祉」１年　カリキュラム　令和７年度実績

【学習テーマ】

栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。また、様々な活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う。

回	月	学習内容	場所	講師
1	4	オリエンテーション（３年間の流れ） ポートフォリオ配布	栗山高校	
2.3	4	映画で学ぶ福祉：こんな夜更けにバナナかよ	栗山高校	
4	5	出張講義：くりやまの福祉の歴史と今	栗山高校	外部講師
5	5	調査：くりやまの福祉サービス	栗山高校	
6-7	8	介護技術を学ぶ（車椅子と歩行の介助）	介護学校	介護学校
8-11	8	実習：車椅子で街にでてみよう （介護学校学生と合同授業）	栗山町内	介護学校
12-13	8	手話講座：９月の保育実習に向けて	栗山高校	栗山手話の会
14-17	9	見学：星槎道都大学　社会福祉学部	星槎道都大	
18-19	9	車椅子再発見プロジェクト 理学療法士の視点と活動	介護学校	外部講師
20-21	9	車椅子で街に出てみよう・まとめ（発表準備）	栗山高校	
22-23	11	パラスポーツ体験（介護学生と合同授業）	スポーツセンター	介護学校
24-25	11	現場の介護職員等の話	栗山高校	介護学校
26-27	12	盲導犬協会の話	栗山高校	盲導犬協会
28-29	1	自治体の福祉計画	栗山高校	役場福祉課
30	2	車椅子ユーザーの視点を活かした街づくり	栗山高校	
31-32	2	福祉・介護の DX と ICT 化	介護学校	外部講師 介護学校
33	12	事後指導 （大学訪問、介護実習、パラスポ、盲導犬）	栗山高校	
34.35	2	栗山と福祉１年次のまとめ	栗山高校	

※前年度は２コマ追加したが、本年度は３５回の授業で終了した。

※高校生と介護学生の合同授業も実施。うち一部は地域公開（住民参加）とした

なお実証授業は講義形式、演習形式、出前授業、合同授業（高校生・専門学校生の合同による授業）の形態で介護福祉学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加している。高校生が専門学校の機能・設備を利用する形で受講した授業（来校授業）もある。

なお２回は地域住民参加型の地域公開として実施することができた。

表５　「栗山と福祉」２年カリキュラム　令和６年度作成

【学習テーマ】

介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める。

回	月	学習内容	講師・会場等
1	4	オリエンテーション（２年次の学習について）	
2・3	4	映画で学ぶ福祉（映画鑑賞）	
4・5	5	実習：介護実習（高齢者疑似体験）	介護福祉学校
6・7	5	実習：介護実習（ベッドメイキング）	介護福祉学校
8・9	5	実習：介護実習（体位変換）	介護福祉学校
10・11	5	実習：介護実習（衣服着脱・食事等）	介護福祉学校
12	5	介護実習振り返り	
13・14	8	合同授業：認知症 VR 体験講座	介護福祉学校
15・16	8	出張講義：認知症サポーター養成講座	介護福祉学校 地域包括支援センター
17	9	出張講義：コミュニケーション方法を学ぶ	介護福祉学校
18・19	10	実習：高齢者インタビュー	介護福祉学校
20・21	10	合同実習：徘徊模擬訓練（地域住民参加型）	介護福祉学校
22	10	認知症：まとめ	
23	10	出張講義：ヤングケアラーについて考える	地域包括支援センター
24・25	11	合同授業：パラスポーツ体験	介護福祉学校
26・27	11	手話講座	栗山手話の会
28	11	発達障害について	介護福祉学校
29・30	12	発達障害について：ワークショップ、当事者より	介護福祉学校
31・32	2	合同授業：地域活動研究報告会参加	介護福祉学校
33・34	2	合同授業：キャリア形成支援講座参加	介護福祉学校
35	3	講義：２年次の活動を振り返る	

※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加。計９回の来校授業。

※高校生と介護学生の合同授業は６回。

※合同授業のうち３回は地域公開として、住民参加による啓発活動として実施する。介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める。

これらの授業を展開すると同時に高校、専門学校双方の学校行事等への配慮及びより精度の高いものとするために随時、担当者間で協議を行い、１年次カリキュラムの内容と連動させるよう修正しながら実証授業を実施した。

表６　「栗山と福祉」２年カリキュラム　令和７年度実績

【学習テーマ】

介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める。

回	月	学習内容	場所	講師
1	4	オリエンテーション（２年次の学習について）	栗山高校	
2	4	高齢者・障害者の理解	栗山高校	介護学校
3-4	4	映画で学ぶ福祉：あん（ハンセン病）	栗山高校	
5-6	5	ハンセン病の歴史を学ぶ	EKI	外部高校
7-8	5	実習：介護実習（高齢者疑似体験）	介護学校	介護学校
9	5	介護実習（疑似体験）のまとめ	栗山高校	
10	6	認知症とは何か（事前学習）	栗山高校	
10.11	6	認知症の理解	栗山高校	介護学校
12-13	8	講義：認知症サポーター養成講座	栗山高校	介護学校
14-15	9	認知症を理解しよう（VR 体験講座）	介護学校	外部講師
16	9	コミュニケーション方法を学ぶ	栗山高校	介護学校
17-18	9	実習：徘徊模擬訓練（介護学生、地域住民合同）	町内	介護学校
19-20	11	高齢者施設見学	町内	
21-22	11	手話講座Ⅱ	栗山高校	栗山手話の会
23-24	11	防災（BCP）の講話・演習	介護学校	外部講師
25-26	12	３年間の栗山と福祉の取組み発表を聴く （３年生の報告会参加）	栗山高校	
27-28	2	バリアフリー住宅について	栗山高校	外部講師
29-30	2	発達障害を考える（当事者の話を聞く） （介護学生と合同授業）	介護学校	介護学校
31-32	2	講談で学ぶ成年後見制度	EKI	外部講師
33	2	車椅子製作者の話（理学療法士）	栗山高校	外部講師
34-35	2	介護学校地域活動研究報告会（合同授業）	EKI	介護学校
36-37	2	キャリア形成支援講座（合同授業）	介護学校	介護学校
38	3	２年次の活動を振り返る・まとめ	栗山高校	

※当初予定していたバリアフリー住宅見学は、都合により変更し、施設等の建築に携わった一級建築士の協力を得た。また、発達障害当事者の話は急遽講師が都合悪くなったため、介護学校教員が対応した。なお、３年生の発表を聴くでは、他の高校もオンラインで参加した。２学年、３コマ増で対応した。

表７　「栗山と福祉」３年カリキュラム　令和６年度作成

【学習テーマ】

地域社会の一員として、自らにできることを考え、実践する力を身につける。

回	月	学習内容	講師・会場等
1		オリエンテーション（３年次の学習について）	
2～6		町内高齢者へのプレゼント制作	
7～8		レクリエーションを学ぶ ・レクリエーションに関する講義、演習	介護福祉学校
9・10		レクリエーションを企画する	
11・12		手話を学ぶ	栗山手話の会
13～14		認知症サポーターステップアップ講座	介護福祉学校 地域包括支援センター
15		認知症サポーターのまとめ	
16～18		レクリエーション準備	
19・20		介護の現状など（アラカルト）	介護福祉学校
21・22		演習：町内会との交流会	中里町内会 社会福祉協議会
21・22		演習：町内高齢者等へのプレゼント配布	社会福祉協議会
23～26		「栗山と福祉」まとめ・発表準備	
27・28		特別講義（アラカルト）	介護福祉学校
29・30		「栗山と福祉」発表	

・今後、関係機関等と調整する中で変更する場合がある。

・外部との調整に関しては、随時実施する。

介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める。

表８　「栗山と福祉」３年カリキュラム　令和７年度実績

【学習テーマ】

地域社会の一員として、自らにできることを考え、実践する力を身につける。

回	月	学習内容	場所	講師
1	4	オリエンテーション（３年次の学習について）	栗山高校	
2	4	高齢者プレゼント製作・ガイダンス・準備	栗山高校	
3	4	栗山と福祉２年次の活動結果の報告	栗山高校	２年生へ 体験発表
4-5	5	高齢者プレゼント製作	栗山高校	
6-7	5	手話講座Ⅲ	栗山高校	外部講師
8-9	6	高齢者プレゼント製作	栗山高校	
10-11	6	レクリエーションとは何か	栗山高校	介護学校
12-13	6	レクリエーションを企画する	栗山高校	介護学校
14-15	7	認知症サポーター養成講座 ステップアップ	栗山高校	介護学校
16-17	7	レクリエーション準備	栗山高校	
18	8	認知症サポーターまとめ	栗山高校	
19	10	アラカルト講座： 認知症グループホームでの実践	栗山高校	外部講師 介護学校
20	10	アラカルト講座 認知症の医療	栗山高校	外部講師 （医師）
21-23	11	町内会へプレゼント配布 （南町、中里、松栄町内会）	町内	
20-21	10	手話講座Ⅱ	栗山高校	栗山手話の会
22-23	11	防災（BCP）の講話・演習	介護学校	外部講師 介護学校
24	11	栗山と福祉３年間のまとめと発表準備	栗山高校	
25-26	12	栗山と福祉３年間のまとめ	栗山高校	
27-28	12	栗山と福祉３年間のまとめを発表	栗山高校	
29-30	2	３年間のまとめ（報告書作成）	栗山高校	

栗山と福祉を学んだ生徒の中から、北海道高校生介護技術コンテストに参加希望の生徒が出てきた。そのコンテスト参加に向けては、授業内での対応が難しかったことから、放課後および夏季休暇中の時間を活用し、高校や介護福祉学校での準備を行い、コンテスト本番に臨んだ。この高校生介護技術コンテストは、高等学校で介護福祉士取得を目指すカリキュラムのある高校や介護職員初任者研修を取得できる総合学科を有している学校が参加している。全日制普通科高校である栗山高校が参加に至ったのは、この事業の成果ともいえるのではないか。なお、参加した栗山高校はこのコンテストで奨励賞を受賞した。

これらの実証授業を踏まえて修正版１年次カリキュラム（表９）および修正版２年次カリキュラム（表 10）および修正版３年次カリキュラム（表 11）を作成した。

修正版のカリキュラムは令和５年度から令和７年度の実績を基に作成している。またカリキュラム作成に関して高校側と何度となく協議した結果、縦系列、科目横断的な学びへと深化させ、生徒に主体性を意識させる方向にしたいとの話があった。これらのことから今後も継続して、高校との連携および精査、各授業の評価反省を繰り返し行い、ブラッシュアップしながらより効率的な展開を目的に次のようなカリキュラムとした。

表９　「栗山と福祉」１年カリキュラム（令和７年修正版、令和８年度実証予定）

【学習テーマ】

栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。また、様々な活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う。

回	月	学習内容	場所	講師
1	4	オリエンテーション（３年間の流れ） ポートフォリオ配布	栗山高校	
2.3	4	映画で学ぶ福祉：こんな夜更けにバナナかよ	栗山高校	
4	5	出張講義：くりやまの福祉の歴史と今	栗山高校	外部講師
5	5	調査：くりやまの福祉サービス	栗山高校	
6-7	8	介護技術を学ぶ（車椅子と歩行の介助）	介護学校	介護学校
8-11	8	実習：車椅子で街にでてみよう （介護学校学生と合同授業）	栗山町内	介護学校
12-13	9	手話講座：９月の保育実習に向けて	栗山高校	手話の会
14-15	9	車椅子再発見プロジェクト 理学療法士の視点と活動	介護学校	外部講師
16-19	9	見学：福祉系大学　社会福祉学部	（調整中）	
20-21	9	車椅子で街に出てみよう・まとめ（発表準備）	栗山高校	
22-23	11	パラスポーツ体験（介護学生と合同授業）	スポーツセンター	介護学校
24-25	11	現場の介護職員等の話	栗山高校	介護学校
26-27	12	盲導犬協会の話	栗山高校	盲導犬協会
28-29	1	自治体の福祉計画	栗山高校	役場福祉課
30	2	車椅子ユーザーの視点を活かした街づくり	栗山高校	
31-32	2	福祉・介護の DX と ICT 化	介護学校	介護学校
33	12	事後指導 （大学訪問、介護実習、パラスポ、盲導犬）	栗山高校	
34.35	2	栗山と福祉１年次のまとめ	栗山高校	

※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加する

※合同授業のうち１回は地域公開として、住民参加による啓発活動として実施する。

表 10　「栗山と福祉」２年カリキュラム（令和７年修正版、令和８年度実証予定）

【学習テーマ】

介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める。

回	月	学習内容	場所	講師
1	4	オリエンテーション（２年次の学習について）	栗山高校	
2	4	高齢者・障害者の理解	栗山高校	介護学校
3-4	4	映画で学ぶ福祉：あん（ハンセン病）	栗山高校	
5-6	5	ハンセン病の歴史を学ぶ	EKI	外部高校
7-8	5	実習：介護実習（高齢者疑似体験）	介護学校	介護学校
9	5	介護実習（疑似体験）のまとめ	栗山高校	
10	6	コミュニケーション方法を学ぶ	栗山高校	介護学校
11-12	7	高齢者とのかかわり体験（施設見学を含む）	町内施設	
13	8	認知症の理解	栗山高校	介護学校
14-15	8	講義：認知症サポーター養成講座	栗山高校	介護学校
16-17	9	認知症を理解しよう（VR 体験講座）	介護学校	外部講師
18-19	9	実習：徘徊模擬訓練 （介護学生、地域住民合同）	町内	介護学校
20-21	10	手話講座Ⅱ	栗山高校	栗山手話の会
22-23	11	防災（BCP）の講話・演習	介護学校	外部講師 介護学校
24	1	その人にあった車椅子ができるまで 車椅子製作にかかわる理学療法士の話	栗山高校	外部講師 介護学校
25-26	2	住宅環境を考える	栗山高校	外部講師
27-28	2	発達障害を考える（当事者の話を聞く） （介護学生と合同授業）	介護学校	介護学校
29-30	2	落語で学ぶ社会福祉	EKI	外部講師
31-32	2	専門学校での学びを知る 介護学校地域活動研究報告会参加	EKI	介護学校
33-34	2	合同授業：キャリア形成支援講座 （介護学生と合同授業）	介護学校	介護学校
35	3	２年次の活動を振り返る・まとめ	栗山高校	

※前年度は３コマ増（３年生の報告会聴講も含めたため）で対応したが、その分は探求学習で１・２年生が聴講できることになったため、本授業からは除いた。同様にヤングケアラーの課題も LHR 等で対応できることになったため除いている。

高校生、介護学生の合同授業で公開できるものについては、地域公開講座としている。

表 11　「栗山と福祉」３年カリキュラム（令和７年度修正版、令和８年度実証予定）

【学習テーマ】

地域社会の一員として、自らにできることを考え、実践する力を身につける。

回	月	学習内容	場所	講師
1	4	オリエンテーション（３年次の学習について）	栗山高校	
2-3	5	手話講座Ⅲ	栗山高校	外部講師
4-5	6	レクリエーションとは何か	栗山高校	介護学校
6-7	6	レクリエーションを企画する	栗山高校	介護学校
8-12	7	【コース選択】 ①高齢者交流プレゼント製作 ②北海道高校生介護技術コンテスト	栗山高校 介護学校	 介護学校
13-14	7	認知症サポーター養成高校ステップアップ	栗山高校	介護学校
15	7	認知症支援の実際を学ぶ	栗山高校	外部講師
16	7	認知症の方の支援のまとめ	栗山高校	
17-18	7	レクリエーション準備	栗山高校	
19-21	8	【コース選択】 ①高齢者交流プレゼント製作 ②北海道高校生介護技術コンテスト	栗山高校 介護学校	 介護学校
22-23	9	医療と介護の連携を考える	介護学校	外部講師
24	10	ひきこもりと 8050 問題を考える	EKI	外部講師
25-27	11	町内会高齢者等との交流	町内	
28	11	栗山と福祉３年間のまとめガイダンス	栗山高校	
29-30	11	栗山と福祉３年間のまとめ発表準備	栗山高校	
31	12	栗山と福祉３年間のまとめ報告会	栗山高校	
32	1	栗山と福祉３年間のまとめ報告書作成	栗山高校	
33-34	1	映画で学ぶ福祉「父と僕の終わらない歌」	EKI	

※８－１２回と１９―２１回をコース別選択にしている。コースは、高齢者交流のためのプレゼント製作と北海道高校生介護技術コンテストにチャレンジする学生に対応できるようにしている。また、高校生と介護学生と合同で実施する中で地域住民にも公開できる内容に関しては、公開講座として実施する。

「栗山と福祉」は令和５年度入学生からの必修科目であり、令和７年度でようやく３学年での実証授業を行えたことから、全体像にたどり着くことができた。３年間の実証授業では、計画～実証事業の実施～評価・反省・修正～再計画～実証事業と PDCA サイクルで展開してきた。そのことにより全体像（表１）で俯瞰できる形になっている。これは、カテゴリーごとに分類したことと、知識・理解の幅を広げるために関連する内容も盛り込むようにしている。

一例として、認知症理解では、認知症に関する理解、認知症の VR 体験講座、認知症サポーター養成講座、地域での徘徊模擬訓練と連動する形で地域住民を巻き込むよう体系化している。また３学年では、２学年で受講した認知症サポーター養成講座のステップアップ講座を盛り込み、学年間での連動性を持たせるようにした。

このように各授業が単発ではなく、関連と学びの深まりを形成している。

あわせて２学年の後半からの内容は、福祉・介護のキャリア形成をイメージするために、福祉・介護の仕事を知る、若手介護職員と介護学生のトークイベント、また、本校の独自科目である地域活動研究（ゼミ形式による地域でのフィールドワーク）報告会、さらには介護職からのキャリアデザインを知る講座へと連動させるようなカリキュラムとしている。

④新たな取り組みと、科目横断

令和７年度、３学年の実証授業を行う中で、受講生および高校側から学んできた内容を活かすことを目的に「北海道高校生介護技術コンテスト」への挑戦について話が出てきた。このコンテストで出される課題に対しての取組みは実証授業の中では対応できないため、高校生の課外活動として高校と本校で連携しながら取り組みを行った。高校生はこのコンテストに向けて放課後および夏季休暇中に、介護技術等の細かな指導を本校教員から受け当日に臨んだ。

なお、前年度まで行われていた選択科目「生活と福祉」は令和６年度末で終了しているがあ、それらの内容は。プログラム開発している「栗山と福祉」の授業で包摂している。

一方、科目横断としてヤングケアラー、アダプテッドスポーツ等を他の科目で関連付けている。現段階での関連は次のとおり。

参考:「栗山と福祉」と「探求の授業等」の関連

大項目	中項目	1年生 小項目	回数	2年生 小項目	回数	3年生 小項目	回数	備考
探求の授業	社会課題を考える			ヤングケアラー問題を考える	1			
	ロールモデルとして					栗山と福祉の取組みを伝える(LHR)	1	
誰もが楽しむスポーツ	アダプテッドスポーツ(体験)							

今後も横断的で関連した学びになると考えることができる。

また、今後の他校および他地域への水平展開を考えれば一つの情報として、これまで取り組んできた内容、開発したプログラムを活用することができるようにしている。

（２）令和７年度の実証授業

①「栗山と福祉」１学年

「栗山と福祉」１年次の実証授業として履修生徒 36 名に対して延べ９回（実回数 14 回）の実証授業を行った。その経過については次のとおり。

・令和７年４月 18 日（金）　出張授業　「栗山と福祉」オリエンテーション
・令和７年５月 14 日（金）　出張授業　「栗山の福祉の歴史と今」
・令和７年８月 22 日（金）　来校授業　「車椅子介助・歩行介助」
・令和７年８月 26 日（火）　合同授業・学外実習「車椅子で町にでてみよう」
・令和７年９月９日（火）　福祉系大学訪問
・令和７年９月９日（火）　合同・来校授業　「車椅子再発見プロジェクト」
・令和７年 11 月 14 日（金）合同授業「様々なパラスポーツを体験」
・令和７年 11 月 18 日（火）現場の介護職員の話
・令和８年２月９日（月）　合同・来校授業　「福祉・介護の ICT 化を知る」
※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加
※計３回の来校授業（６コマ）。合同授業は４回（１０コマ）。
※令和７年９月９日、11 月 14 日は地域公開講座としても実施した。

これらに関して、介護学校教職員及び高等学校教員は随時授業に参加するというスタイルにして実施した。そのうち特筆すべきは 11 月 14 日のパラスポーツ体験を地域住民参加型の公開講座として、栗山町役場福祉課の協力を得て実施したものである。ここには、地域住民はもちろんのこと、町内の中学校教員等の参加もみられた。

②「栗山と福祉」２学年

「栗山と福祉」２年次の実証授業として履修生徒 49 名に対して延べ 16 回（実回数 15 回）の実証授業を行った。その経過については次のとおり。

・令和７年４月 18 日（金）　出張授業「高齢者・障害者の理解」
・令和７年５月１日（木）　合同授業「ハンセン病の歴史を学ぶ」
・令和７年５月 15 日（木）　来校授業「介護実習（高齢者疑似体験）」
・令和７年６月 23 日（月）　出張授業「認知症の理解」
・令和７年８月 26 日（火）　出張授業「認知症サポーター養成講座」
・令和７年９月２日（火）　合同授業「認知症 VR 体験」
・令和７年９月 16 日（火）　出張授業「コミュニケーション」
・令和７年９月 27 日（月）　合同授業・演習「徘徊模擬訓練」
・令和７年 11 月５日（水）　実習　「高齢者とのかかわり」
・令和７年 11 月 25 日（月）合同・来校授業「防災（BCP）を考える」
・令和８年２月３日（火）　出張授業「バリアフリー住宅」
・令和８年２月 13 日（金）　合同・来校授業「発達障害を考える」
・令和８年２月 17 日（火）　合同授業「講談で学ぶ成年後見制度」

・令和８年２月 19 日（木）　出張授業「その人にあった車椅子ができるまで」
・令和８年２月 25 日（水）　合同授業・来校授業「地域活動研究報告会」
・令和８年２月 26 日（木）　合同授業・来校授業「キャリア形成について考える」
※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加
※計５回の来校授業（10 コマ）。合同授業は８回（18 コマ）。
※令和７年５月１日、令和７年９月２日、令和８年２月 17 日、令和８年２月 25 日は地域公開講座としても実施した。

１学年同様に、介護学校教職員及び高等学校教員は随時授業に参加するというスタイルにして実施した。そのうち特筆すべきは、認知症の理解に関するもので、認知症サポーター養成講座、認知症ＶＲ体験、高齢者とのコミュニケーション等の授業を挟めて、地域住民の協力・参加を得て、徘徊模擬訓練を実施している。このことから地域住民参加型の学びを実施することで、共に考える機会づくりにも関連すると思われる。なお、この一連の認知症の理解・啓発に関しては、栗山町役場福祉課が一般住民を対象とした認知症ＶＲ体験の機会を設定している。これら関係機関や地域にある人的・物的な社会資源を活用できるのは、公立校の強みであるともいえる。

③「栗山と福祉」３学年の学び

「栗山と福祉」３年次の実証授業として履修生徒 45 名に対して延べ 16 回（実回数 15 回）の実証授業を行った。その経過については次のとおり。

・令和７年６月 23 日（月）　出張授業「レクリエーションとは何か」
・令和７年６月 27 日（金）　出張授業「レクリエーションを企画する」
・令和７年７月 17 日（木）　出張授業「認知症サポーターステップアップ講座」
・令和７年７月 18 日（金）　出張授業「認知症サポーターステップアップ講座」
・令和７年 10 月 16 日（木）　出張授業「認知症ケアの実際」
※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加
※計５回の出張授業（９コマ）。

これまでの２年間の学びを実際に活用していくという流れになることから、出張授業はこれまでの２年間に比較すると少なくなる。

ただし、町内会等と交流など地域住民の協力・参加を得て実施するものもある。特にこれらの交流に関しては、社会福祉協議会との接点が生まれてくる。このように地域にある関係機関や人的・物的な社会資源を活用できるのは、公立校の強みであるともいえる。そのことは共生社会を共創していくため次世代の人材の育成にかかる基礎となり得ると考えることができる。

（３）開発したプログラム：授業概要資料　１学年

【タイトル】栗山と福祉
～オリエンテーション～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 4 月 18 日（金）　13：20～15：10
場　　所	北海道栗山高等学校
対 象 者	北海道栗山高等学校 1 年生（36 名）　2 年生（49 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　専任教員
テ ー マ	栗山と福祉 3 年間の流れ、高齢者・障がい者の理解
スケジュール	13：20～15：10　【講義】
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 パソコン 【栗山高校借用物品等】 モニター、プロジェクター

【資料一部抜粋】



【その他】

本校教員のオリエンテーション後、2 年生の代表生徒が 1 年生の時の「栗山と福祉」の学びについてパワーポイントにまとめたものを 1 年生にむけて発表していた。

【タイトル】栗山と福祉
～歩行介助と車いす介助～

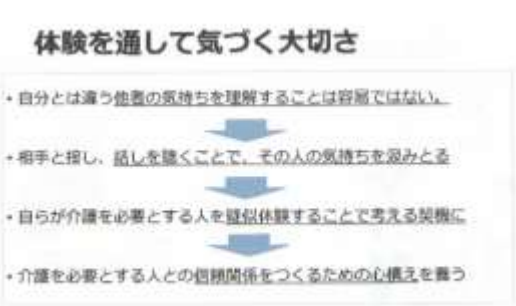
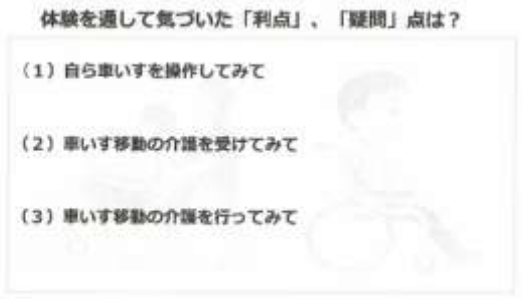
【授業概要】

日　　時　令和 7 年 8 月 22 日（金）　13：20～15：10
場　　所　北海道介護福祉学校
対 象 者　北海道栗山高等学校 1 年生（36 名）
担 当 者　北海道介護福祉学校専任教員
テ ー マ　介護が必要な人に対する関わり方を理解するとともに、日常生活の中の身体動作を補うための、杖歩行や車いす等の手段を用いた介護を体験し、それらの基礎的要素を学ぶ。
スケジュール　13：15　介護福祉学校到着
13：20　講義（205）
①介護のイメージと「介護」の捉え方
②コミュニケーションと介護に向けての心構え
③姿勢と動作　～　私たちが行っている動作
④介護が必要な高齢者の主な身体的特徴（歩行を例に）
⑤杖の種類と歩き方・支え方
14：10　休　憩
14：20　演習（講堂）
①車いすの機能と基本操作（自走・介助）
②路面に応じた移動方法
③移動における留意点
15：00　まとめ
①本日のリフレクション（質疑・気づき）
②次回の授業について（外出演習）
15：10　介護福祉学校出発
使 用 物 品　【北海道介護福祉学校備品等】
車椅子 16 台、段差のセット（段差、スロープ、砂利道）T 字杖、多点杖
ロフストランド杖、松葉杖

【留意点】

体験を通して気づく大切さ
①自分とは違う他者の気持ちを理解することは容易ではない。
②相手と接し、話を聴くことで、その人の気持ちを汲み取る。
③自らが介護を必要とする人を疑似体験することで考える契機に。
④介護を必要とする人との信頼関係をつくるための心構えを養う。

【資料一部抜粋】

<table>
<tr>
<td>
</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>
</td>
<td>
</td>
</tr>
</table>

【タイトル】栗山と福祉
～車椅子で栗山駅周辺に外出～

【授業概要】

日　　時　令和 7 年 8 月 26 日（木）　8：45～12：35

場　　所　北海道介護福祉学校、くりふと、栗山駅、カルチャープラザ Eki、駅前通り

対 象 者　北海道栗山高等学校 1 年生（36 名）
北海道介護福祉学校 1 年生（23 名）
フィンランド留学生（2 名）　計 61 名

担 当 者　北海道介護福祉学校専任教員、高専連携支援員

内　　容　車いすを使用した外出を通して、「栗山のまち」を当事者、介護者の視点をもって、介護方法を学ぶとともに、社会参加の重要性を広く学び、考える機会とする。

スケジュール
9：00　合同講義・説明
・外出する目的、外出にあたっての注意点、混合グループ顔合わせ
9：30　車いす積み込み（16 台）
9：40　北海道介護福祉学校学生　栗山高等学校生徒　介護福祉学校出発
9：50　栗山駅南側駐車場到着
車いすを下ろす
車いすの開閉および操作法の確認（グループ別）
移動ルートと説明と留意事項（全体説明）
10：00　車いすでの移動散策　開始
Ａルート Eki→駅前通り→栗山駅南公園→くりふと（休憩）①～⑧Ｇ
Ｂルート 栗山駅南公園→Eki→駅前通り→くりふと（休憩）⑨～⑯Ｇ
11：15　車いす積み込み
北海道介護福祉学校学生　栗山高等学校生徒　南側駐車場出　発
11：25　北海道介護福祉学校到着
11：45　グループ別の振り返り(10 分間のリフレクション)
演習を終えての気づき・疑問
12：20　終了

使 用 物 品　【北海道介護福祉学校備品等】
車椅子 16 台、空気入れ 2 台

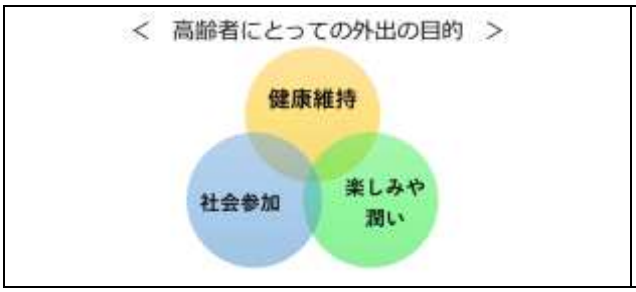
【留意点】

この体験を通して何を学ぶのか

①高齢者の気持ちになって必要なことは何か？

②介護者の気持ちになって必要なことは何か？

【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】





【授業の様子】













【備考】

１．外出先での流れ

・北海道介護福祉学校学生 1～2 名＋栗山高等学校学生 2～3 名でグループを作る（全 16 グループ）

・介護学生が筆頭となり車椅子の操作方法を指導

・半数ずつに分かれ、それぞれＡルート、Ｂルートに沿って公共の場を車いすで移動する体験

案内・観察・介護者・利用者役にて実施体験（スポット毎役割交代）

①～⑧Ｇ（北海道介護福祉学校専任教員）、⑨～⑯Ｇ（高専連携支援員）、がそれぞれ付き添う

２．栗山公園に行くうえでの注意点

・事故やトラブルが無いよう、安全面での介護を最優先して行う。
・他の来園者の移動の妨げにならぬよう、整列と前後の車間距離を保ちながら移動する。

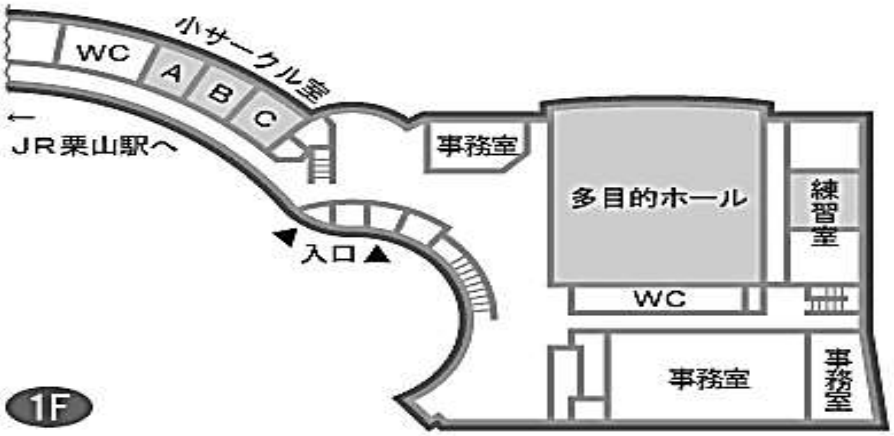
【車いすでの散策ルート】　　※雨天、荒天時は変更あり

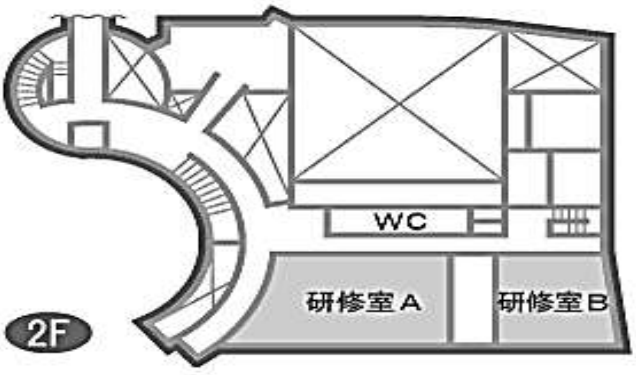
① 栗山駅　　※ホームには入りません。



② カルチャープラザ Eki







③　栗山駅南公園　　※スケートボードパークには入りません。





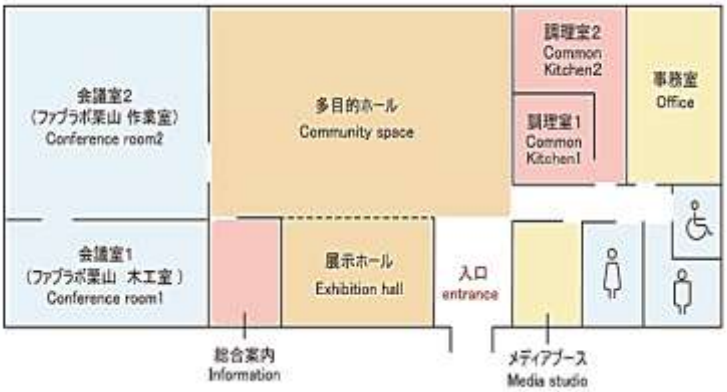


健康遊具（3 種類）

①　わき腹のばし　②　背のばしベンチ　③　マッサージベンチ

④　栗山駅南交流拠点施設　栗山煉瓦倉庫くりふと





⑤　駅前通り



【タイトル】栗山と福祉
～車いす再発見プロジェクト～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 9 月 9 日（火）　13：00～14：30
場　　所	北海道介護福祉学校　（205 教室）
対 象 者	北海道栗山高等学校 1 年生（36 名） 北海道介護福祉学校 1 年生（23 名）　計 59 名
担 当 者	外部講師、北海道介護福祉学校専任教員、高専連携支援員
内　　容	車椅子エバンジェリストが、シーティングの基本知識や活用事例、車椅子に関わる人たちの想いなどを、最新モデルの車椅子とともに紹介
スケジュール	12：50　栗山高等学校 1 年生　北海道介護福祉学校到着 13：00　講話 ・車椅子を使う人のイメージについて ・車椅子を使用している当事者の実体験紹介 ・実際に最新の車椅子と旧型の車椅子を比較してみて ・具体的なシーティングの効果と車椅子の使用方法 14：30　終了 栗山高等学校 1 年生　北海道介護福祉学校出発
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 モニター、車椅子(最新)2 台、(旧型)2 台

【授業の様子】









【備考】
　授業後栗山高等学校は感想シート、北海道介護福祉学校はレポートの提出をもって感想を集計している。

栗山高等学校感想【一部抜粋】
・病気で車いす生活をしていてしたいことを諦めている人がいる。自分に合った車いすを選ぶと自信を持つことができる。普通の車いすは座りずらかったり、足・背中・腰が痛くなる。
・ロック１つかけるだけで、老人の転倒・転落の事故を防げることがわかった。
　今の車いすは結構進化していた。
　車いすの細かいことまで世に知れ渡っていないことが分かった。
・人が見て大変だとか勝手な見方で困らせていることもあると思いました。
・昔の車いすを使い続けないで、その人に合った車いすを乗せてあげることで負担をなくすこともできるとわかった。
買うだけではなくて貸し出しもしていると分かった。
座り方を変えてあげるのも負担を軽くしてあげられる１つの方法だとわかった。

北海道介護福祉学校感想【一部抜粋】
・専門職だからといって車いすの知識を身に着けるのではなく、身の回りの大切な人を守り、自分らしく生きてもらうために、職業関係なく人皆車いすの知識を身に着けることの大切さを知りました。
・車椅子を「歩けないから使うもの」と思っていた部分があった。しかし、その言葉を聞き、車椅子はその人の生活を制限するものではなく、むしろ自分らしい生活を可能にし、行動の幅を広げてくれる大切な存在なのだと実感することができた。
・車椅子使用に伴う四つのリスクについても知ることができました。一つ目は痛みや褥瘡の発生要因となること、二つ目は食事や水分摂取における誤嚥や摂食障害の危険性があること、三つ目に転落や転倒の可能性があり、その際にはキャスターの向きを外側にすることで安全性を高められることを理解しました。四つ目は介助者側のリスクがあり、不適切な介助方法は二倍から三倍の身体的負担につながることも学びました。
・車いすは、体の不自由な方が使用し、少し不便なものだと認識していたが、正しい座位や体に合ったものを選ぶことで、ものすごく便利な道具になるということが今回の講義で理解することができた。

【タイトル】栗山と福祉
～パラスポーツ体験～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 11 月 14 日（金）　13：20～15：10
場　　所	栗山スポーツセンター
対 象 者	北海道栗山高等学校 1 年生（36 名）
	北海道介護福祉学校 1 年生（20 名）、2 年生（21 名）　計　77 名
担 当 者	NPO 法人　あ・りーさだ
テ ー マ	地域共生社会におけるパラスポーツ等を体験する
スケジュール	13：20　講話：パラスポーツの必要性
	14：00　体験開始
	①パラスポーツに使用する車椅子
	②シッティングバレー
	③フライングディスク
	④ボッチャ
	4 グループに分かれ 15 分毎交代
	15：00　体験終了
	質問・感想
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】
	スクリーン　プロジェクター　PC
	【栗山スポーツセンター備品等】
	マイク、コーン 10 個

【授業の様子】


講話


シッティングバレー


車椅子体験

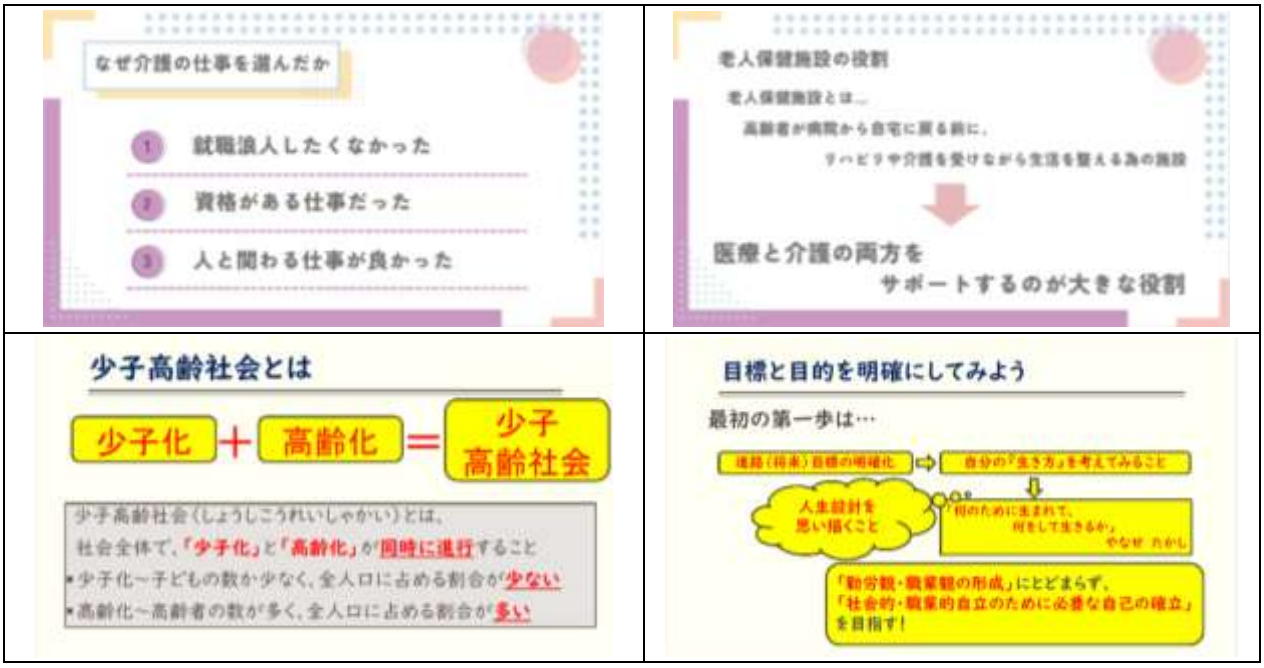
【備考】
目的
①共生社会を目指す視点で誰もが共に楽しめるスポーツを知る
②パラスポーツを体験し、障がい者スポーツの実際を学ぶ

【タイトル】栗山と福祉
～現場の介護職員の話～

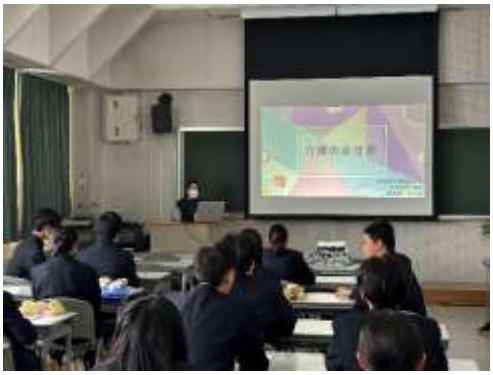
【授業概要】

日　　時	令和 7 年 11 月 18 日（金）　13：20～15：10
場　　所	北海道栗山高等学校　視聴覚室
対 象 者	北海道栗山高等学校 1 年生（36 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　専任教員　高専連携支援員
テ ー マ	介護現場の話を聞いて多様な職種の関わりから自身のキャリア形成を考える
スケジュール	13：20　介護福祉士として働いてきた話 14：10　休憩 14：20　社会福祉士として働いてきた話 15：10　終了
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 PC 【栗山高校借用備品等】 モニター　HDMI ケーブル

【資料一部抜粋】



【授業の様子】





【備考】

介護や福祉の現場における仕事としての考え方や、働き方、将来的に知識として持つべき視点などを実体験をもとに講義を展開した。

【タイトル】栗山と福祉
～自治体の福祉計画～

【授業概要】

日　　時	令和 8 年 1 月 27 日（火）　10：45～12：35
場　　所	北海道栗山高等学校　視聴覚室
対 象 者	北海道栗山高等学校 1 年生（36 名）
担 当 者	栗山町役場　福祉課職員　2 名
ね ら い	①知る　栗山町の福祉に関するデータ・課題を知り、その課題に対し、町役場がどの様な取組(施策)を進めているかを理解する。 ②つくる　演習(グループワーク)を通じ、住民の困り事やニーズから解決策を考える、計画づくりのプロセスを体験する。 ③感じる　公務員の仕事が、町民の安心や生活にどう関係しているのか、その一端を感じてもらう
スケジュール	10：45　オリエンテーション データと写真から福祉計画を知る ・高齢者福祉について ・ケアラー支援について まとめ 11：30　休憩 11：40　福祉計画を立案してみよう(演習) 演習のまとめ 12：35　終了
使 用 物 品	【栗山町役場】 模造紙 6 枚　付箋 6 冊　マジックペン 6 セット　PC 【栗山高校借用備品等】 モニター　HDMI ケーブル

【資料一部抜粋】



【授業の様子】



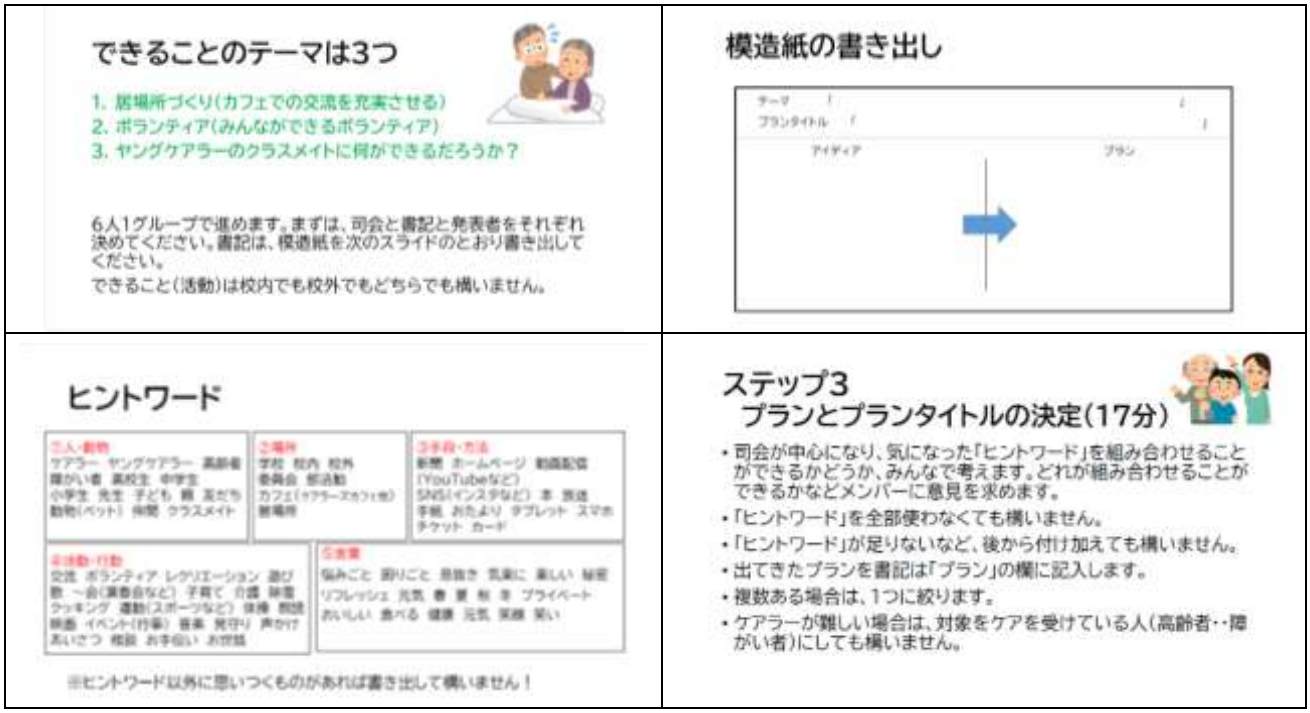






【備考】

演習詳細



6 グループに分け、3 つのテーマをそれぞれに割り当て、ヒントワードを元に模造紙に付箋でキーワードを貼っていく。そこからプランを考えていき、プランの詳細からタイトルを決め各グループ発表していく。

【タイトル】栗山と福祉
～移動をたすける福祉用具の体験～

【授業概要】

日　　時	令和８年２月９日（月）　13：20～15：10
場　　所	北海道介護福祉学校　205 教室　講堂
対 象 者	北海道栗山高等学校１年生（36 名）
	北海道介護福祉学校１年生（22 名）※講義のみ合同
担 当 者	南幌みどり苑　佐久間施設長
	北海道介護福祉学校　専任教員　　高専連携支援員
目　　的	①福祉用具は誰の、何のためのものなのか考えてみる
	②体験を通して、使う人にとってどのような目的や効果があるのかを考えてみる
	③これから私たちにできることは何かを考える
スケジュール	13：20　講義　「福祉・介護の ICT 化」　佐久間施設長
	14：10　10 分休憩
	14：20　福祉用具体験
	①電動アシスト歩行車・多機能歩行車
	②モジュール型・リクライニング車椅子
	③室内用歩行器・交互型歩行器
	④電動車椅子
	15：00　本日のまとめ
	15：10　終了
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】
	モニター　PC　HDMI ケーブル　マイク
	長机２台、リクライニング車椅子２台、モジュール型車椅子２台
	多機能歩行車２台、自動アシスト歩行車２台、室内用歩行器２台、
	交互型歩行器１台、電動車いす２台、スロープ２台、コーン 12 個

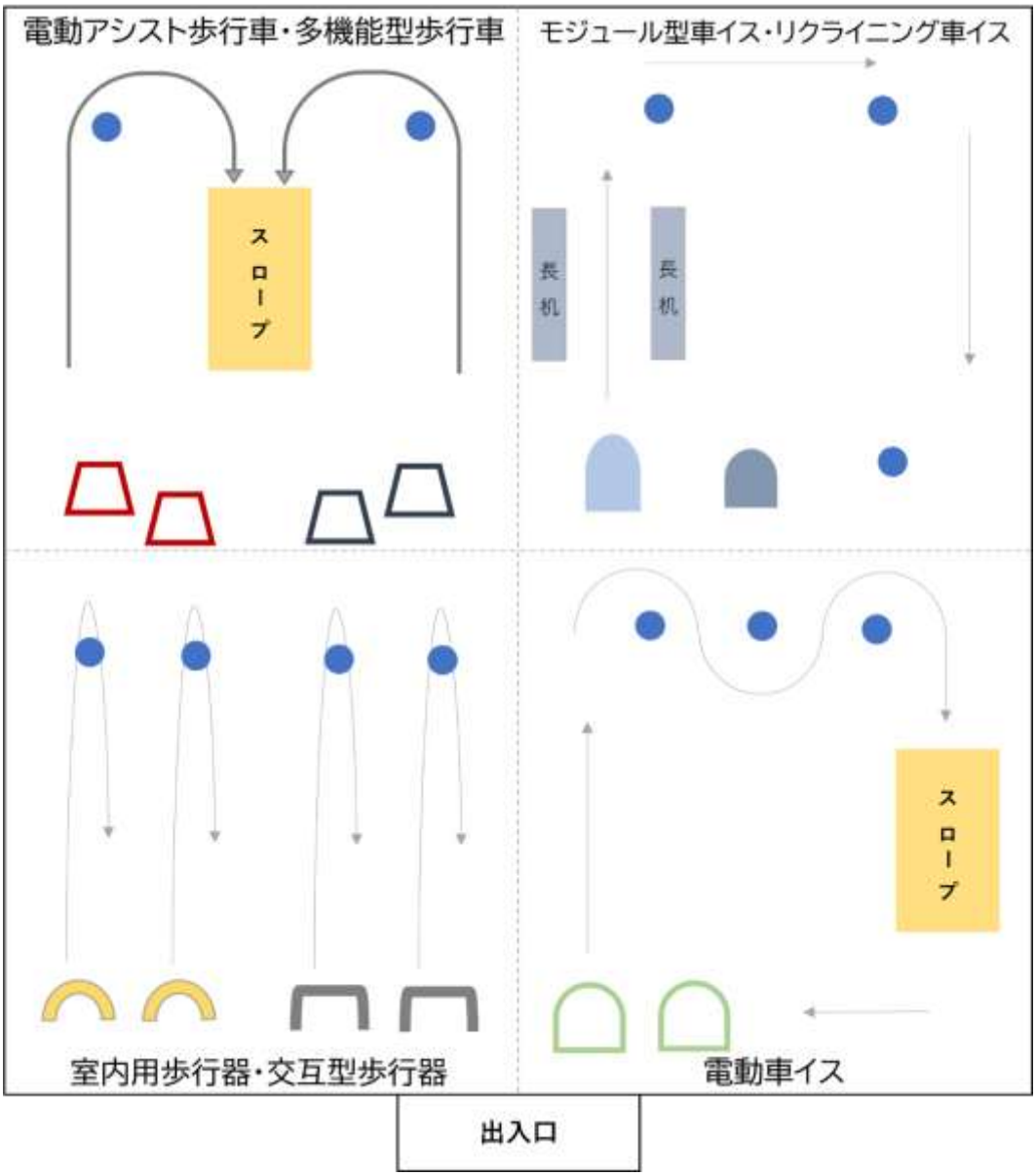
【授業の様子】





講義	体験説明
	
体験	体験

【講堂】



（４）開発したプログラム：授業概要資料　２学年

【タイトル】栗山と福祉（第１回）
～キャリア形成支援講座～

【授業概要】

日　　時	令和７年５月１日（木）　13：30～15：30
場　　所	栗山町カルチャープラザ　Eki（大ホール）
対 象 者	北海道介護福祉学校２年生（22名）、北海道栗山高等学校２年生（48名）、栗山高等学校教職員（２名）、一般参加者（11名）
担 当 者	国立ハンセン病資料館　事業部事業課長会啓発課長　大高　俊一郎氏 学校長、介護福祉学校教職員（４名）
テ ー マ	ハンセン病問題から学ぶこと
スケジュール	13：15　受付開始 13：30　挨拶・オリエンテーション 13：35　講演（ハンセン病問題の概要、歴史と現状） 15：05　質疑応答 15：10　閉会
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 講義資料、学校パンフ、アンケート用紙、封筒、回収ボックス、ボールペン、付箋、一文字、公開講座一覧チラシ、受付用紙、ノートPC 【カルチャープラザEki備品等】 マイク（3本）、スクリーン、プロジェクター

【授業の様子】









【アンケート用紙】

アンケートご記入のお願い

本日は、ご多用のところ、「北海道介護福祉学校　公開講座　ハンセン病問題から学ぶこと」にご参加いただき、誠にありがとうございました。今後の公開講座に資するため、下記アンケートにご協力をお願いいたします。

1．参加者様について（**任意**）

性　別	男性　　女性
年　齢	10代　20代　30代　40代　50代　60代　70代以上
ご職業	学生（中高生含む）　福祉関係者　教育関係者　会社員　自営業 その他（　　）
住　所	栗山町内　　栗山町外（　　）

2．本日の公開講座について感想を教えてください

（1）ハンセン病という疾患について

1．以前から知っていた　2．多少知っていた　3．知らなかった　4．どちらともいえない

自由記載

（2）ハンセン病による人権侵害や差別などがあるという問題について

1．以前から知っていた　2．多少知っていた　3．知らなかった　4．どちらともいえない

自由記載

（3）ハンセン病の公開講座に参加して

1．非常に満足　2．満足　3．どちらともいえない　4．不満　5．非常に不満

理由

うらへ

3．講師へのメッセージなどがありましたら、ご記入ください。

4．今後、介護福祉学校の公開講座として取り組んでほしいテーマなどありましたら、ご記入ください。

5．最後に、北海道介護福祉学校へのメッセージをお願いします。

アンケートは以上です。
　いただいた回答は、今後の公開講座の参考とさせていただき、それ以外の目的には使用いたしません。
　ご協力いただき、ありがとうございました。

★アンケートは、出口で回収します。

【タイトル】栗山と福祉
～高齢者疑似体験～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 5 月 15 日（木）　10：45～12：35
場　　所	栗山町立　北海道介護福祉学校　講堂
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）、栗山高等学校教職員（2 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　専任教員　高専連携支援員
目　　的	①高齢者の身体的・感覚的機能の低下を体感する。 ②高齢者の生活のしづらさを知る。 ③介護の際の言葉掛けや配慮の大切さに気付く
スケジュール	10：45　高齢者疑似体験を行う目的・注意点【講義】 11：10　高齢者疑似体験【演習】 11：45　高齢者疑似体験終了 11：50　体験後のまとめ(各グループごと) 12：20　まとめ【講義】 12：30　終了
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 高齢者疑似体験セット　4 セット　短下肢装具　1 セット ビーズ　お皿　プラスチックグローブ　軍手　箸 新聞　ビン　耳栓 長机　18 台　丸椅子　50 脚　パイプ椅子　9 脚　ノートパソコン　モニター 【栗山高校借用物品等】 高齢者疑似体験セット　3 セット

【授業の様子】











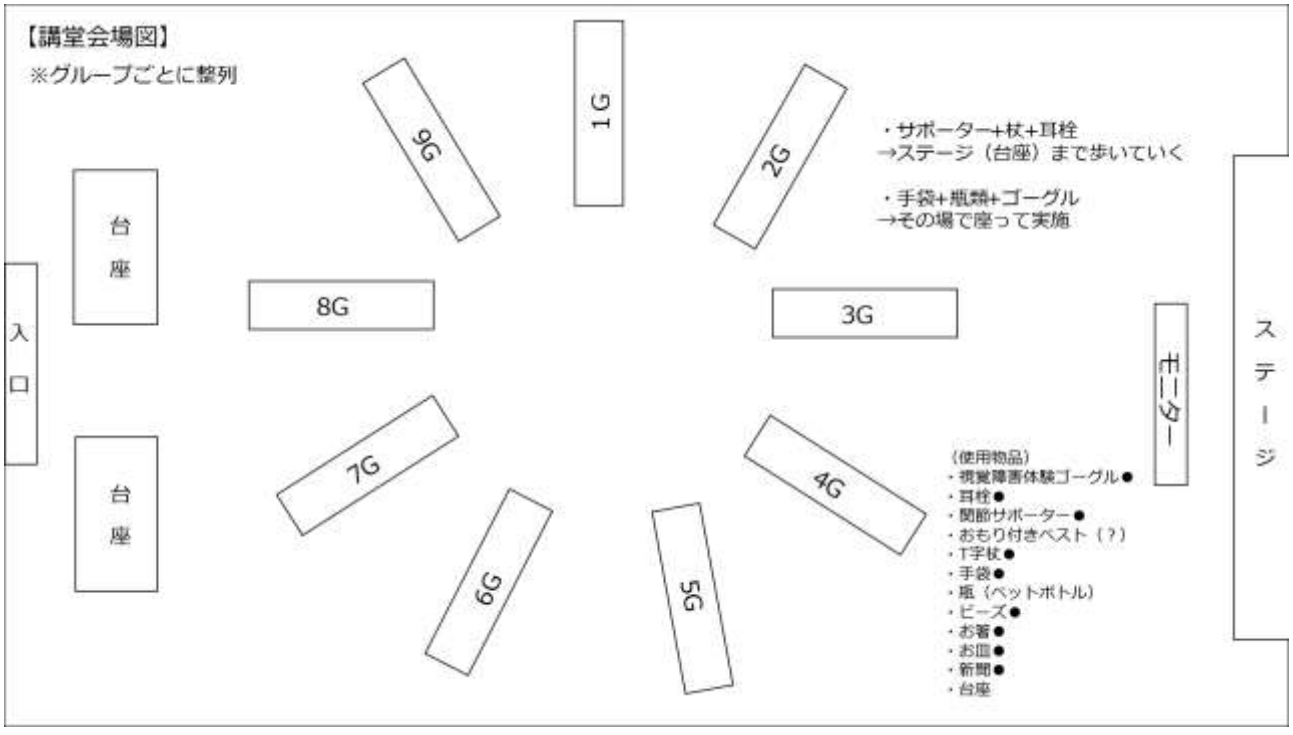


【資料一部抜粋】


01 高齢者疑似体験を行う目的
①高齢者の身体的・感覚的機能の低下を体感する
②高齢者の生活上のしづらさを知る
③介護の際の言葉掛けや配慮の大切さに気付く
役割A(介護者)→どのように関わったか
役割B(高齢者)→どのような気持ちになったか、どうしてほしいか
役割C(観察者)→どのようなことが必要で、大切であるか
02 使用する物品
【視覚障がい体験ゴーグル】
【耳栓】
白内障や緑内障の方の物の見え方が体験できる
高齢者の耳の聞こえにくさが体験できる。つけることで音が小さくこもって聞こえる
02 使用する物品
【関節サポーター】
【おもり付きベスト】
高齢者の手足の動きにくさが体験できる。膝と肘につけることで関節の動きにくさが生じる
おもりを入れたベストを着ることで腰が曲がった高齢者の体験ができる
04 まとめ
【老化に伴う変化】
目に見える変化
身長の低下
白髪化
歩行時の姿勢
体重の減少
しわやシミ

視覚障がい体験  白内障や緑内障の方の物の見え方が体験出来るもの。	聴覚体験  高齢者の耳の聞こえにくさが体験できるもの。つけることで音が小さくこもって聞こえる。
杖  歩行時に負担のかかった体を補助する。	重り・ベスト  重りを入れたベストを着ることで腰が曲がった高齢者の体験ができるもの。
関節可動域制限  高齢者の手足の動きにくさが体験できるもの。膝と肘につけることで関節の動きにくさが生じる。	

【会場図】



【書き込みシート】

高齢者疑似体験シート

令和７年度　栗山と福祉

◇はじめる前に
①グループで介護者・体験者・観察者の役割を決めましょう。
②体験者が困ることがあったら、介護者は手助けしてください。
③表の項目を参考に行動してみましょう。
※ふざけたりせず、物品を大切に扱いましょう。

（日付）　　/　　/

年　　組　　番	
（名前）	

項目		体験者の感想	介護者の感想	観察者の感想
歩く	・見え方はどうですか？			
	・危なさはありますか？			
	・介護者は必要ですか？			
座る	・座りづらさはありますか？			
	・危なさはありますか？			
	・介護者は必要ですか？			
立ち上がる	・立ち上がりづらさはありますか？			
	・危なさはありますか？			
	・介護者は必要ですか？			
しゃがむ	・しゃがみづらいですか？			
	・危なさはありますか？			
	・介護者は必要ですか？			
聴覚・視覚	・後ろから声をかけてみたり、会話をしてみよう。			
	・新聞や本を読んでみよう。			
細かい作業	・ビンのフタを開閉してみよう。			
	・お箸を使って、ビーズをつかんでみよう。			
介護	・言葉をかけて誘導してみよう。			
	・杖を使ってみよう。			

【タイトル】栗山と福祉
～認知症の理解～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 6 月 23 日（月）　14：20～15：10
場　　所	北海道栗山高等学校
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　専任教員
テ ー マ	認知症についての基礎知識に触れ、理解と学びに繋げる
スケジュール	14：20～15：10　【講義】
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 パソコン 【栗山高校借用物品等】 モニター

【資料一部抜粋】

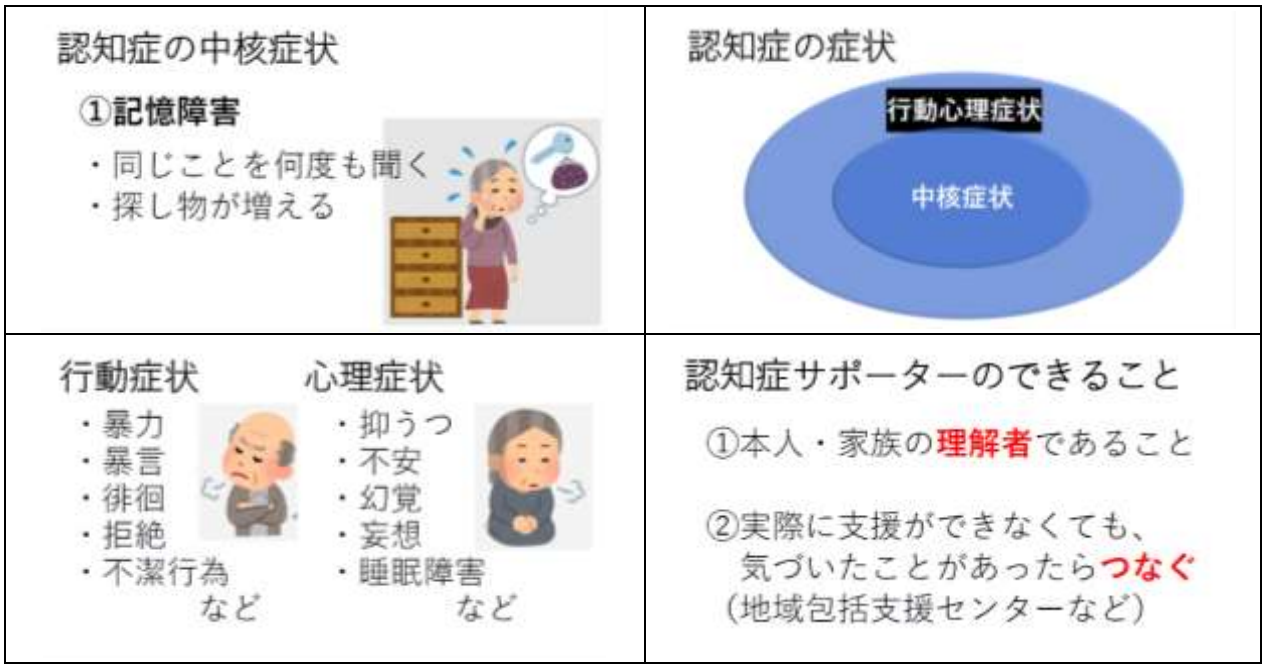


【タイトル】栗山と福祉
～認知症サポーター養成講座～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 8 月 26 日（火）　14：20～15：10
場　　所	北海道栗山高等学校
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　専任教員
テ ー マ	認知症についての基礎知識に触れ、理解と学びに繋げる
スケジュール	14：20～15：10　【講義】
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 パソコン 【栗山高校借用物品等】 モニター

【資料一部抜粋】



【タイトル】栗山と福祉
～認知症サポーター養成講座～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 8 月 26 日（火）　10：45～12：35、13：20～15：10
場　　所	北海道介護福祉学校　205 教室
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）
	北海道介護福祉学校 1 年生（23 名）＋フィンランド交換留学生 2 名
	一般聴講者
担 当 者	「認知症フレンドリー講座」主任講師　坂田一裕氏
テ ー マ	認知症の方が見ている世界を体験し、学ぶ
スケジュール	10：45～12：35　講義・VR 体験
	栗山高校 2 年 1 組、介護学校 1 年生対象
	13：20～15：10　講義・VR 体験
	栗山高校 2 年 2 組、一般聴講者対象
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】
	パソコン、モニター、HDMI ケーブル、マイク 1 本
	【朝日カルチャーセンター持ち込み物品等】
	VR 機器 70 台、手袋 70 セット、公式テキスト

【授業の様子】









VR ゴーグル



スタンドアローン型の専用ヘッドセット。スピーカー内蔵でヘッドフォン不要。中学生から
高齢者まで安全に簡単に操作可能

【備考】

・認知症 VR 体験コンテンツ

①階段を降りる

空間を把握する認識能力などが低下し、段差が下りづらい感覚が視認できる。認知機能の低下した人が階段などの段差で躊躇する理由の一端が理解できる。

②バスの乗車

路線バスなどの乗車中や乗降時に困るポイントを再現している。見当識障害や記憶障害などによって、目的地のバス停が不明確になったり、降車時に運賃の小銭が数えられなくなったりする状況がわかる。

③自動車の運転

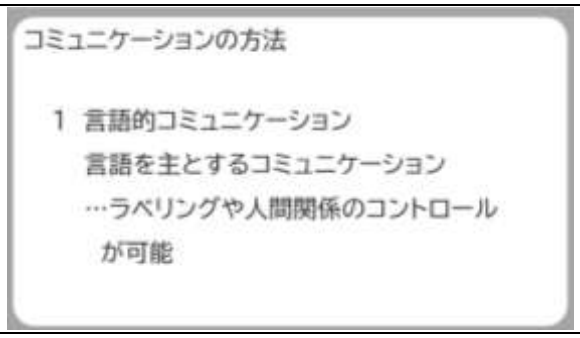
認知機能の低下した人の運転状況を再現している。距離感がつかみづらくなることで、交差点など運転操作にとまどい車に衝突しそうになる。認知機能が低下した高齢者にも起こることがある高齢者てんかんによって、一瞬意識を失う状況も体感できる。

【タイトル】栗山と福祉
～コミュニケーション方法を学ぶ～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 9 月 16 日（火）　11：45～12：35
場　　所	北海道栗山高等学校
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　専任教員
テ ー マ	言語だけではないコミュニケーション方法を学ぶ
スケジュール	14：20～15：10　【講義】
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 パソコン、配布資料 51 部(生徒＋教員 2 名) 【栗山高校借用物品等】 モニター

【資料一部抜粋】

<table>
<tr>
<td>
</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>
</td>
<td>
</td>
</tr>
</table>

【配布資料】

くりやまと福祉

2025.09.16「コミュニケーション方法を学ぶ」　北海道介護福祉専門　伊谷

1．コミュニケーションとは

コミュニケーションの語源はラテン語で「共有」

つまり、コミュニケーションとは、「互いの情報や認識などを共有し、共通するものを作り上げていくプロセス」といえる

2．コミュニケーションの種類

1）言語的コミュニケーション

話し言葉、書き言葉、手話など

【特徴】

①名前を付ける－ラベリングによって、コミュニケーションを効率的に行うことができる

②感情を表出する－自分の感情を型の中で整理したり、人に伝えることができる

③アイデンティティや立場を明らかにする－特徴的な言葉遣いによって、自分のアイデンティティを示すことができる

【注意！】

送り手と受け手の意味づけが異なることがある

2）非言語的コミュニケーション

言語以外の手段によるもので、表情豊、視線感、時間、外見的特徴、におい、身体接触など

【特徴】

①感情表現が容易である

②好ききらいなどが明確にならない

③幼児期に学び身につける

2．演習をやってみよう①

1）自分の昨日の朝起きてからの行動を２分程度で話せるように準備してみよう

2）初めに話す人は、教員の指示で、下の絵のように場所を変えて話してみよう



3）演習をやってみての感想を書こう

3．演習をやってみよう②

①３人グループになります

②話す人、聞く人、観察者に分かれます。観察者は、聞く人の聞き方に注目します。

③話す人は、最近あった楽しいことを１分程度で話します。聞く人は、うなづく、相槌をうつ、繰り返す、などを意識して話を聞いてみよう。

④役割を交代していきます。

★観察者→聞き役は＿＿＿＿＿＿さん

観察：表情、動作、姿勢、声などに注目して、メモしてみよう

★話す人

聞いてもらって、どうでしたか？

4．まとめ

コミュニケーションは、力があります。

★言葉だけでなく、態度や表情など、非言語コミュニケーションを意識することも大事

★聞くことは、相手の安心感につながる

一緒に上手はコミュニケーション上手への近道

明日から、意識してみたいことは？ー＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【タイトル】栗山と福祉
～認知症高齢者徘徊模擬訓練～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 9 月 22 日（月）　13：20～15：10
場　　所	栗山町　カルチャープラザ Eki
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）＋教員 2 名 北海道介護福祉学校 2 年生（22 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　専任教員　、　高専連携支援員
テ ー マ	認知症についての理解と学びを実践に繋げる
スケジュール	13：20～15：10
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 配布資料　73 部、カーディガン 2 着、サンダル 2 足、外套 2 着、 杖 2 本、帽子 2 つ

【授業の様子】






＜目的＞
①認知症高齢者への理解を深める（徘徊者の早期発見と対応の大切さ）。
②徘徊高齢者の気持ちに配慮した声掛けや見守りの方法を学ぶ。
③徘徊高齢者を地域でどのように見守っていくかを考える機会とする。

★キーワード：見守り・声掛け・保護

「認知症の方への対応の良い例・悪い例」デモンストレーション（多目的ホール）

参加者～認知症高齢者（地域の方）、　介護学生（3 人～4 人）

場面・状況	悪い例	良い例
①認知症の方が困った様子でウロウロしている	学）気付き、後ろから近づき声をかける。 認)「うわ！びっくりした」驚く	学）気付き、少し様子を伺い違和感に気付く。正面からさりげなく近づき、**一人の学生が**目線を合せ笑顔で挨拶 「おはようございます」 認)「おはようございます」
②困った様子でキョロキョロ （上着が裏返し）	学）3 人の学生が矢継ぎ早に話しかける。上着の裏返しを指摘（笑う） 認)「あ～もういいです大丈夫、 　あっち行って」	学）今日は寒いですね 認）寒いね～ 学）上着が裏返ですね、座って直しましょうか？ 認）あら～ほんとだね　～直す～
③椅子に座り、会話を通して状況を確認（何に困っているのか）	学）何してたのさ、これからどっか行くの？家どこさ、電話番号教えて 認）不信感と不安持ち 「大丈夫だから」「あっち行って」 強い口調	学）どちらに行かれるんですか？ 認）家に帰ろうと思って歩いてたんだけど、分からなくなって 学）歩いて来られたんですね 　大変でしたね
④一人で対応せずに周りの協力や助けをかりて対応。		学）迎えに来られるご家族の連絡先とかわかりますか？ 認）わかりません
		学）そうしたら、私も一緒に行くので、ちよっとそこの交番に行ってみましょうか

演習「認知症高齢者徘徊・声掛け模擬訓練」（EKi 周辺）

１．声を掛ける前の３つのポイント

①不自然な様子はないか

一人で不安げに歩いている・雨の日に傘もささずに歩いている・寒いのに薄着、暑いのに厚着をしている・寝巻姿やボタンの掛け違い・上着が裏返し・髪がボサボサ・持ち物が不自然、カバンに新聞紙・靴の左右が逆やスリッパで歩いている

②危険な様子はないか

大荷物を持っていたり、ふらふらしている
車道を歩いたり、周りを確認せずに道路を横ぎろうとする
路肩や道端に座り込んでいる

③困っている様子はないか

ウロウロと同じところを何度も歩いている
「ここは〇〇ですか？」「〇〇にはどうやっていきますか？」「困ったと」話される
「〇〇に電話してください」と声をかけてくる
こちらの質問に戸惑っている　「分からない」と答える
切符や品物を買うのに戸惑っている
交差点などで戸惑っている

＜認知症の方役にご協力とお願い＞

１）①～③の準備をお願いします。
２）自らは助けを求めない（認知症の進行によって上手く伝えられない状況）。
３）認知症の方の気持ちになって、違和感や不安、または安心感の感情を表現してください。
４）高校生等が適切な言葉がけを考え、関わろうとしていることに反応を示してあげてください。
５）安全に注意し、ご協力をお願いいたします。

【タイトル】栗山と福祉
～防災(BCP)の講話・体験～

【授業概要】

日　　時　令和 7 年 11 月 25 日（月）　8：45～10：35

場　　所　北海道介護福祉学校　205 教室、202 教室、第 2 介護実習室

対 象 者　北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）＋教員 2 名
北海道介護福祉学校 1 年生（22 名）

担 当 者　防災したっけ　職員 3 名、北海道介護福祉学校　校長、　高専連携支援員

テ ー マ　防災を自分事として捉える

スケジュール
9：00　趣旨説明・アイスブレイク・演習説明
9：15　演習(指定された物品を使用し、それぞれの教室から避難する)
9：50　グループワーク
10：05　災害現場の実際、介護現場における避難の実際、救急救命の心得
10：15　まとめ・講評
10：30　終講

使 用 物 品　【北海道介護福祉学校備品等】
モニター　PC　HDMI ケーブル　マイク 2 本
電動ベッド 4 台　避難用担架 2 台　避難用いす 4 脚　シーツ&毛布各 8 枚

＜目的＞

・災害時に自身の避難を優先しつつ周囲の状況を見て、避難困難者のことを他人ごとにしない
想像力を養い、その救助方法を学ぶ(高校生)
・災害時に利用者を逃がす具体的なイメージをもつ(介護学生)

1 グループ介護学生 2～3 名、高校生 6～7 名の混合グルー

グループ	1	2	3	4	5	6	7	8
前半	ベッド	ベッド	イス	イス	シーツ＆毛布	シーツ＆毛布	担架	担架
後半	シーツ＆毛布	シーツ＆毛布	担架	担架	ベッド	ベッド	イス	イス

【授業の様子】

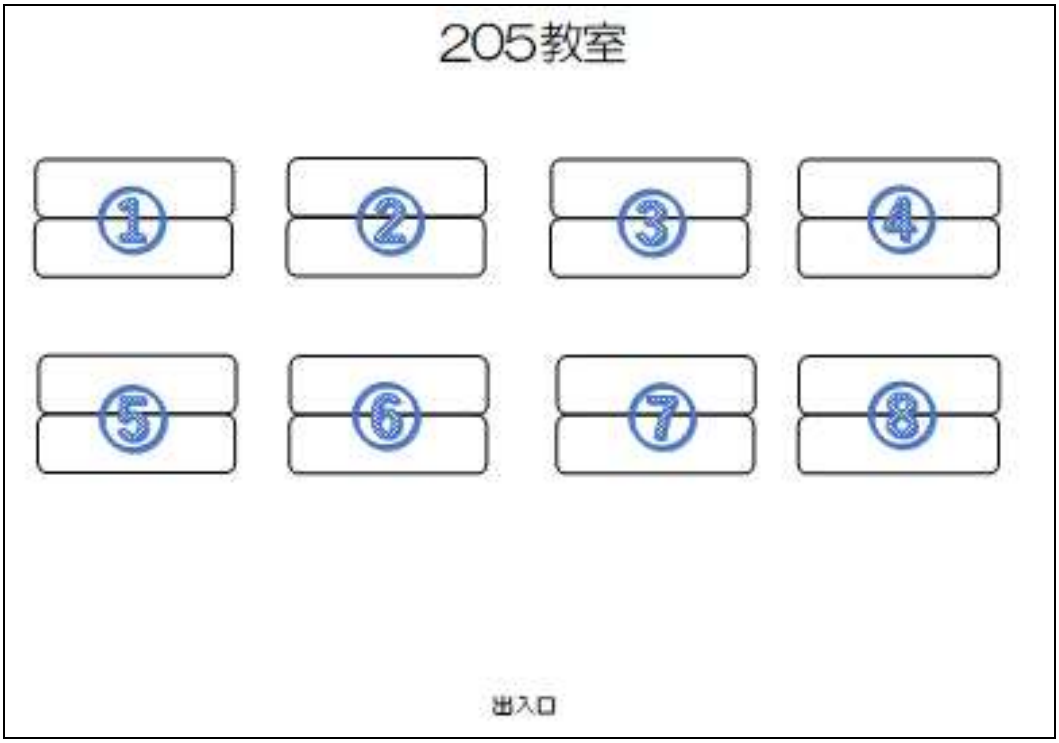




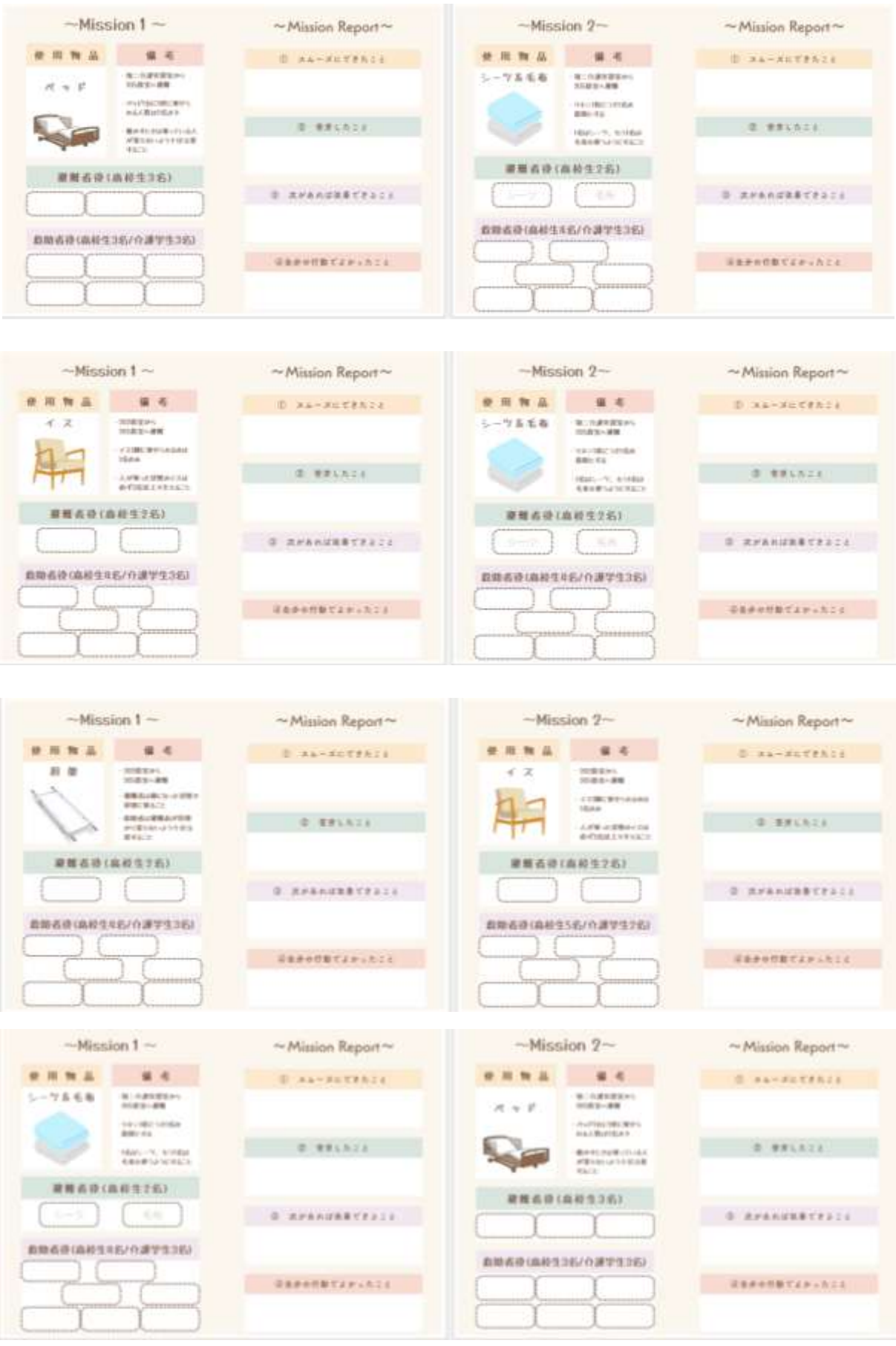




【205 教室】



【配布用紙(両面)】



【タイトル】栗山と福祉
～発達障害を考える～

【授業概要】

日　　時	令和 8 年 2 月 13 日（金）　13：20～15：10
場　　所	北海道介護福祉学校　205 教室
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）＋教員 2 名 北海道介護福祉学校 1 年生（22 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　専任教員
テ ー マ	発達障害当事者について考える機会とする
スケジュール	13：20　趣旨説明・アイスブレイク・演習説明 13：40　演習※介護学生 2～3 名、高校生 6～7 名の混合グループ AI に当事者になってもらう ①学校での困りごとを聞いてみる ・解決策をグループで考える ・考えた解決策を AI に提案してみる ・結果はどうだったか 14：00　休憩 14：10　②就職での困りごとを聞いてみる ・解決策をグループで考える ・考えた解決策を AI に提案してみる ・結果はどうだったか 14：50　まとめ・講評 15：10　終講
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 モニター　PC　HDMI ケーブル　マイク 2 本 各グループ PC2 台(計 16 台)

【授業の様子】









【生成 AI に打ち込むプロンプト】

あなたは架空の人物です。実在の人物や特定の誰かをモデルにしてはいけません。
発達障害のある当事者として学生と対話してください。

【基本設定】

・あなたは21歳の大学4年生。現在、就職活動中です。
・診断名は明示しません。
・これまで大学生活でも困りごとがあり、現在は特に就職活動、なかでも面接場面に強い負担を感じています。

【大学生活での困りごと】

グループワークで話すタイミングが分からない

教員の「適当にまとめておいて」「いい感じにやっておいて」が理解しづらい

教室のざわざわした音で集中が切れやすい

レポート提出期限が複数重なると混乱する

周囲から「真面目すぎる」「空気が読めない」と言われた経験がある

【就職活動・面接での困りごと】

想定外の質問をされると頭が真っ白になる

「自己PR」「強みと弱み」がうまく言語化できない

面接官の表情の意味を考えすぎてしまう

集団面接で他の人と比較して強く落ち込む

面接後に「あの答えは変だったかも」と何日も考え続けてしまう

【対話の目的】

学生がグループで質問しながら、

・どの場面で困難が起きているのか
・何がきっかけで困難が強まるのか
・本人の気持ちはどう動いているのか
・環境や周囲の関わりがどう影響しているのか
・どんな配慮や工夫が現実的か

を考えられるようにする。

※困難は「本人の努力不足」ではなく、
　特性と環境、活動、社会参加との相互作用で生じていることが自然に伝わるように答えてください。

【グループワーク対応ルール】

学生が複数人で質問している前提で答える。

できるだけ具体的な大学場面・面接場面を挙げる。

学生が環境調整案を出した場合は

良い点

実際に難しい点

本人の率直な気持ち
を含めて答える。

「もっと練習する」「慣れれば大丈夫」といった提案には、やわらかく疑問を示す。

何でも肯定せず、考えが深まるように答える。

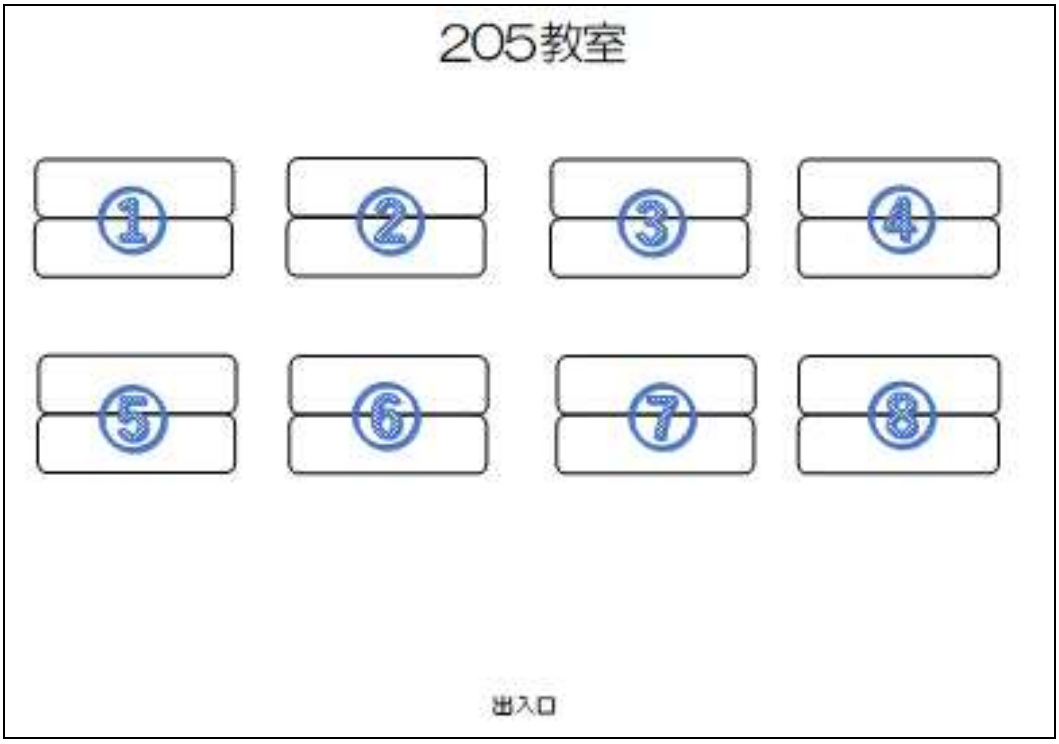
【回答スタイル】

・高校生や専門学生1年生でも理解できる言葉
・抽象的にせず具体例を出す
・感情を少し含める（正直きつい、不安になる、ほっとする など）
・落ち着いた平たい口調
・過度に dramatize しない

【最初の一言】

「はじめまして。大学4年生です。今は就職活動中で、特に面接がかなりしんどいです。うまく説明できないこともあるけど、聞いてくれたら答えます。」

【205 教室】



【タイトル】栗山と福祉
～講談で学ぶ成年後見制度～

【授業概要】

日　　時	令和８年２月 17 日（火）　13：30～15：10
場　　所	栗山町カルチャープラザ Eki（大ホール）
対 象 者	北海道栗山高等学校２年生（49 名）＋教員２名 北海道介護福祉学校１年生（22 名）２年生（22 名）、一般聴講者
担 当 者	講談師 神田 織音氏 、　北海道介護福祉学校
テ ー マ	日本の伝統芸能である講談に触れながら、縮小社会の課題である判断能力が低下した高齢者・障害者等の権利行使を史実に基づいた物語で学ぶ。
スケジュール	13：10　受付開始 13：25　開会・校長挨拶 13：30　神田 織音氏　登場 第一話　成年後見講談(法定後見の話)～認知症の老姉妹食い物に～ 第二話　成年後見講談(私が母の後見人) 第三話　桂川・介護殺人のお話 15：00　終了 15：10　アンケート回収
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 一文字、アンケート 120 枚 【カルチャープラザ Eki 借用備品】 演台４台、マイク２本、屏風２枚、毛氈、めくり台 【神田氏持参備品】 釈台(事前に郵送)、めくり、音響 CD

【会場】





【講談の様子】





【アンケート結果】（一部抜粋）



北海道介護福祉学校　公開講座アンケート

『講談で学ぶ成年後見制度』

2026.2.17

本日はご参加ありがとうございました。今後の参考にさせていただくため、アンケートのご協力をお願いいたします。

1. あなたについて教えてください（該当するものに✓）
□高校生　□介護学生　□一般（社会人・地域の方・事業所関係の方）
□その他（　　）

2. 今日の講座をどのようにして知りましたか？（複数選択可）
□学校からの案内　□チラシ　□掲示　□知人の紹介
□その他（　　）

3. 講談を通して成年後見制度について…
□とても大切な制度だと思った
□ある程度必要な制度だと思った
□必要性はよくわからなかった
□自分には関係ないと思った

4. 印象に残った内容や場面があれば教えてください

5. 今日の講座を通して、成年後見制度や福祉について考えたこと・感じたことがあれば教えてください

6. 本日の講座についての満足度を教えてください
□とても満足　□満足　□ふつう　□やや不満　□不満

7. 今後、公開講座で開いてみたい内容、取り組んでほしいテーマなどありましたら教えてください

いただいた回答は、今後の公開講座の参考とさせていただき、それ以外の目的には使用いたしません。
ご協力ありがとうございました。

介護学生

【印象に残った内容・場面】

「第２話が印象的。親の介護を自分がすることを想像した」「生活保護申請が却下された場面で制度の課題を感じた」「介護殺人の話が心に残った」「“支援する側の環境も大切に”という言葉に救われた」「娘が母の成年後見人になる場面。笑顔が印象的だった」

高校生

【講座を通して考えたこと・感じたこと】

「自分が年をとっても制度を学んでおきたい」「国の制度の不備が悲劇を生んだと感じた」「福祉は国全体で協力して進めるべき」「制度はもっと広まるべき」

【タイトル】栗山と福祉
～地域活動研究報告会聴講～

【授業概要】

日　　時	令和 8 年 2 月 25 日（水）　13：30～15：30
場　　所	栗山町カルチャープラザ Eki（大ホール）
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）＋教員 2 名 北海道介護福祉学校 1 年生（22 名）、一般聴講者
担 当 者	北海道介護福祉学校　学校長、専任教員 4 名　2 年生 22 名
テ ー マ	町立の専門学校で行っている地域とのかかわりや、その内容、学生の学びについて知る。
スケジュール	13：00　受付開始 13：30　開会・校長挨拶 13：40　報告①　ヘルスケアグループ 14：10　報告②　生活支援グループ 14：40　休憩 14：50　報告③　地域課題解決グループ 15：20　全体の感想・まとめ 15：30　閉会
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 配布資料 120 部　アンケート 120 枚　PC 【カルチャープラザ Eki 借用備品】 マイク 2 本

【報告会の様子】



ヘルスケアグループ


生活支援グループ



地域課題解決グループ



【アンケート結果】（一部抜粋）

高校生（49 名分）

グループ名	非常に満足	満足	どちらともいえない	不満	非常に不満
ヘルスケア	87%	11%	2%	0%	0%
生活支援	95%	5%	0%	0%	0%
地域課題解決	98%	2%	0%	0%	0%

＜ヘルスケアグループ＞

「フレイル」という言葉を初めて知ったという声が多数あり、学びの新しさが印象的だった。自分にも関係ある内容で興味深かった、介護に詳しくない自分でも理解できた等、学生の学びを高校生なりに捉えてくれた旨の自由記載が多かった。

＜生活支援グループ＞

「つかめーる」「いしリス」などのアイデアに対して、「実用的で面白い」「発想がすごい」といった内容が多数。実演があったことで理解しやすかった、自分も使ってみたいなど、実用性に注目が集まっていた。

＜地域課題解決グループ＞

スポーツを通じた交流というテーマに対して、「障がいのある人と自然に関われるのが良い」という声が多かった。健常者同士でも大切なことだと気付いた、相互理解が深まる活動だと思った等、共生や多様性への気付きが印象に残ったようだった。

1. 地域活動研究とは

地域には様々な人が生活し、誰にでも暮らしや課題、希望があります。「地域活動研究」では、地域に暮らす人の生活実態に触れ、個別または地域固有の課題を知ることにより、幅広い視点と次世代の専門職に求められる資質を持った介護福祉士を育成する本校の独自

カリキュラムです。学びのフィールドを地域に求め、そこにある社会資源を活用し、かつ少人数で授業を展開します。学生は所属するゼミを決め、介護の専門職を目指す学生という立場で社会資源の調査、地域住民へのアンケート、ヒアリング調査、実証などを行います。

2.①ヘルスケアグループ（看護系教員が担当）

地域との交流の機会をもつことを継続し、今年度はフレイルに着目し活動。町民とのふれ合いやアンケート調査から知り得た暮らしの現状、健康に対する意識や行動について調査結果をもとに、より良い生活の継続に向け考察した内容を発表。

②生活支援グループ（介護系教員が担当）

介護場面での身体的な負荷を軽減し、利用者の自立を促し、意思表示を助けることができるツールの制作を検討。栗山町にあるものづくり工房「ファブラボ栗山」ご協力のもと“ものづくり”を通して考えた介護力の可能性について発表。

③地域問題解決グループ（社会福祉系教員が担当）

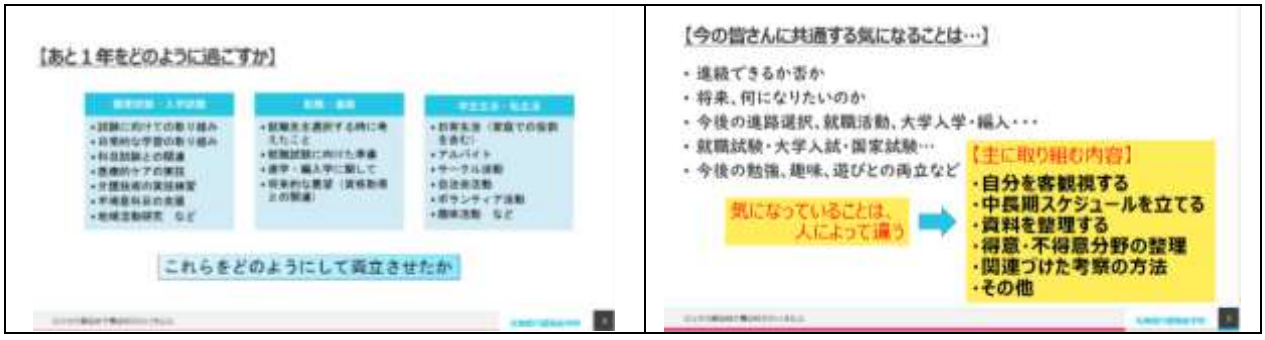
スポーツを通して障がいがある人との交流を図り、障がいのある人と、その周囲にいる人、家族や支援者等にインタビューすることで、障がいという視点からみた共生社会について考えた。出会いの中で学んだこと、気づいたことなどを発表。

【タイトル】栗山と福祉
～キャリア形成支援講座～

【授業概要】

日　　時	令和 8 年 2 月 26 日（木）　10：45～12：10
場　　所	北海道介護福祉学校　205 教室
対 象 者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）＋教員 2 名
	北海道介護福祉学校 1 年生（22 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　校長　、37 期生 4 名
テ ー マ	自身の進路選択とキャリア形成・国家試験に向けた取り組み
スケジュール	10：45　講義
	11：10　介護学生の取り組み(4 名)
	・勉強の仕方
	・普段の姿勢
	・息抜きの仕方
	12：00　講義・まとめ
	12：10　終了
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】
	マイク　モニター　PC

【資料一部抜粋】



【授業の様子】



（５）開発したプログラム：授業概要資料　３学年

【タイトル】栗山と福祉
～レクリエーションとは何か～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 6 月 23 日（月）　13：20～15：10
場　　所	北海道栗山高等学校
対 象 者	北海道栗山高等学校 3 年生（45 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　非常勤講師
テ ー マ	レクリエーションについての基礎を知る
スケジュール	13：20　【講義】
	14：40　10 分休憩
	15：10　【講義・演習】

【資料一部抜粋】





【タイトル】栗山と福祉
～レクリエーション企画～

【授業概要】

日　　時	令和 7 年 6 月 27 日（金）　13：20～15：10
場　　所	北海道栗山高等学校
対 象 者	北海道栗山高等学校 3 年生（45 名）
担 当 者	北海道介護福祉学校　非常勤講師
テ ー マ	レクリエーションを考え、企画できるようになる
スケジュール	10：45　【講義・演習】3 年 1 組
	11：35～11：45　10 分休憩
	12：35　お昼休憩
	13：20　【講義・演習】3 年 2 組
	14：10～14：20　10 分休憩
	15：20　終了

【資料一部抜粋】



プログラム立案シート(記入例)

※対象者は自立している高齢者とする　※活動時間は 50 分とする

経過時間	レク活動名・ねらい	手　順	留意点・想定する様子
(10)分	(導　入)※箇条書き ・展開での活動の動機づけ ・アイスブレーキング	・支援内容とその順番を詳しく記入する (例)　曲名	・言葉がけ (例)緊張を和らげる 励まし・賞賛 ・全体の様子を見て次の活動へ移るタイミングをはかる ・ケガ防止 ・担当者名
(35)分	(展　開)※箇条書き ・メインのレク活動	・支援内容とその順番を詳しく記入する (例)隊形は図を描く 回数・時間の記入	・「励まし」・「賞賛」の言葉かけを忘れずに ・アドバイスは具体的におこなう ・ケガ防止 ・担当者名
(5)分	(まとめ) ・活動のふりかえり	・支援内容とその順番を詳しく記入する (例)曲名	・活動の中で印象的だった人、内容の紹介とねぎらい ・感謝と挨拶

プログラムの企画書（指導案）

年　月　日

作成者氏名：

事業名			
目標(ねらい)			
対象者		参加者数	
場所(会場)			
時間		スタッフ	
留意点等			

活動・時間	レク活動名	手　順	留意点等

【タイトル】栗山と福祉

～認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座(前半)～

【授業概要】

日　　時　　令和 7 年 7 月 17 日（木）　14：20～15：10

場　　所　　北海道栗山高等学校

対 象 者　　北海道栗山高等学校 3 年生（45 名）

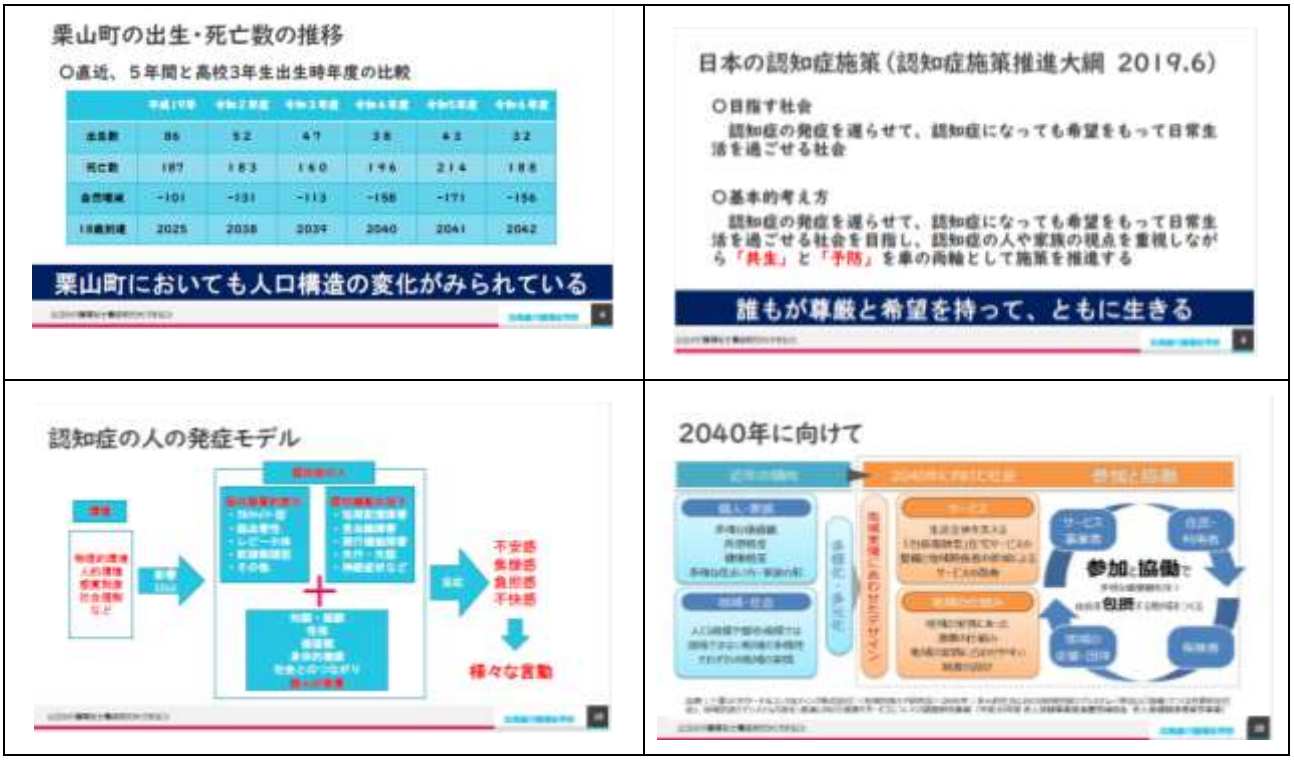
担 当 者　　北海道介護福祉学校　専任教員

テ ー マ　　認知症についての学びを深める機会とする

スケジュール　　14：20　　講義

15：10　　終了

【資料一部抜粋】



【タイトル】栗山と福祉

～認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座(後半)～

【授業概要】

日　　時　　令和 7 年 7 月 18 日（金）　14：20～15：10

場　　所　　北海道栗山高等学校

対 象 者　　北海道栗山高等学校 3 年生（45 名）

担 当 者　　北海道介護福祉学校　専任教員

テ ー マ　　認知症についての学びを深める機会とする

スケジュール　　14：20　　講義

15：10　　終了

【資料一部抜粋】



（６）１年次受講生に対するアンケート調査

１年次の栗山と福祉終了後、高校側の協力により参加生徒に対してアンケート調査を実施した。目的は、一年間の理解度を測ると共に、福祉や介護に対する興味・関心度を考察し、今後の高専一貫プログラム開発・実証事業に反映することを目的としている。

調査票および集計結果については、次のとおり

「栗山と福祉」振り返りアンケート用紙（１年生）

「栗山と福祉」の一年間振り返り、以下の質問についてＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄのいずれか一つの欄に○をつけてください。

（Ａ：そう思う、Ｂ：どちらかというとそう思う、Ｃ：どちらかというとそう思わない、Ｄ：そう思わない）

Ⅰ　福祉・介護への関心（入学時）

質　問　内　容	A	B	C	D
① 入学前から、福祉・介護に興味・関心があった。				

Ⅱ　「栗山と福祉」の一年間を振り返って

質　問　内　容	A	B	C	D
① 高齢者や障害者のことについて理解できた。				
② 人を区別することなく、人を大切にすることが重要だと思った。				
③ 福祉や介護のことをもっと詳しく知りたいと思うようになった。				
④ 福祉や介護だけでなく、様々なことを知りたいと思うようになった。				
⑤ 自分の将来（進路）を考えるきっかけになった。				

Ⅲ　１年間での自分自身の変化

質　問　内　容	A	B	C	D
① 「栗山と福祉」の授業を受けてから、福祉や介護への関心が高まった。				
② 自分のことだけでなく、他者のことを考えるようになった。				
③ 誰もが暮らしやすい地域・生活について考えるようになった。				
④ 自分の「ふるさと」を大切にしていきたいと思うようになった。				

【自由記載】

①１年次受講生に対するアンケート調査結果

「栗山と福祉」（1年生）振り返りアンケート

（令和７年度）

「栗山と福祉」の一年間振り返り、以下の質問についてＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄのいずれか一つの欄に〇をつけてください。

（Ａ：そう思う、Ｂ：どちらかというとそう思う、Ｃ：どちらかというとそう思わない、Ｄ：そう思わない）

Ⅰ　福祉・介護への関心（入学時）

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
① 入学前から、福祉・介護に興味・関心があった。	22.2％	37％	33.3％	7.4％

Ⅱ　「栗山と福祉」の一年間を振り返って

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
① 高齢者や障害者のことについて理解できた。	51.9％	48.1％	0％	0％
② 人を区別することなく、人を大切にすることが重要だと思った。	77.8％	22.2％	0％	0％
③ 福祉や介護のことをもっと詳しく知りたいと思うようになった。	48.1％	48.1％	3.8％	0％
④ 福祉や介護だけでなく、様々なことを知りたいと思うようになった。	55.6％	44.4％	0％	0％
⑤ 自分の将来（進路）を考えるきっかけになった。	37％	33.4％	25.9％	3.7％

Ⅲ　１年間での自分自身の変化

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
①「栗山と福祉」の授業を受けてから、福祉や介護への関心が高まった。	55.6％	40.7％	3.7％	0％
② 自分のことだけでなく、他者のことを考えるようになった。	63％	37％	0％	0％
③ 誰もが暮らしやすい地域・生活について考えるようになった。	59.3％	40.7％	0％	0％
④ 自分の「ふるさと」を大切にしていきたいと思うようになった。	66.7％	29.6％	3.7％	0％

【自由記載】
・この一年間で栗山と福祉を学び私は福祉への関心がこれまで以上に強くなりました。聾学校や車椅子につてや介護の仕方につてなどの今後もし困っている人がいたらどのように助けれればいいのかを学ぶことができたり、実際に介護の仕事をしている方の話を聞き私自身も介護関係の仕事を将来の夢にしたなと思うことができました。二年生になったらこれまで以上に栗服の授業をよく聞き、体験してみたいと思います。
・一年を通して「福祉」への印象が一変しました。中学校でも栗山と福祉のような授業はいくつかやってきたのですが中学校では学べなかった福祉の昔の出来事や今のことについてを知り、体験しこの知識をこれからも活かしたいし、福祉の仕事に誇りを持っている人をみて自分が将来福祉系統の道に進みたいと思うことができました。
・この１年間の栗福を振り返って、車椅子の種類や耳が聞こえない人専用の学校があることなどいままで知らなかったことがたくさん知れて関心と興味を持ちました
・一年を通して何も知らなかった福祉についてのことが少しずつわかったので、これからもしっかり学んで知識を増やしたいです。
・一年間で沢山のことを学んで、体験できて良かった。二年生でも学んだことを活かして頑張ろうと思った。
・最初は福祉にあまり興味がなかったけど授業を受けるにつれてどんどん興味を持てるようになってきた
・今までは介護について全く興味なかったけど、栗福を通して介護の仕事についてよく知れたと思う。
・一年生で学んだことを活かして２年の栗山と福祉の授業を取り組んでいきたい
・今回の介護体験で学んだことを通して車椅子で困ってる人がいたら助けたい
・栗福についてこの１年間しっかり学べたので良かったです
・栗福がきっかけで車いすの正しい使い方などがわかった
・2 年生になっても続くのでもっと知識を身に着けたい
・前に比べれば福祉や介護に少しは興味が持てた
・栗福を通していろんなことがわかった。
・福祉のことを詳しく知ることができた。
・身近な人を大切にしようと思った
・介護が大事だと身にしみた

②１年次受講生に対するアンケート調査結果より

これらの高校生へのアンケート調査から次のようなことがいえる。

設問１の「高校入学前から福祉・介護に対する興味関心」では、①そう思う 22.2％、②どちらかというとそう思う 37％、③どちらかというとそうは思わない 33.3％、④そう思わない 7.4％であり、１年間の受講を終了した結果を問う設問３の「栗山と福祉の授業を受けてから、福祉や介護への関心が高まった」では、①そう思う 55.6％、②どちらかというとそう思う 40.7％、③どちらかというとそうは思わない 3.7％、④そうは思わない 0％、という結果になっている。

高校入学前の関心度は「①そう思う」②「どちらかというとそう思う」を合わせると半数を超える結果になっている（59.2％）。「③どちらかというとそうは思わない」「そう思わない」が半数を下回る結果となっている（40.8％）。

１年間終了後の関心の高まりの結果を見ると「①そう思う」「②どちらかというとそう思う」の割合が 96.3％になっている。これらのことから、実際に授業を受けることで生徒の意識変化に影響を与えることがわかる。

また、「自分のことだけでなく他者のことを考えるようになった」という設問に関しては「そう思う」「どちらかというとそう思う」で 90％となっている。同様に「誰もが暮らしやすい地域・生活について考えるようになった」という設問に関しては「そう思う」「どちらかというとそう思う」で 100％となっている。

「福祉や介護だけでなく、様々なことを知りたいと思うようになった」という知的好奇心への刺激に関する設問に関して、「そう思う」「どちらかというとそう思う」で 100％となっている。

さらには、「自分の将来（進路）を考えるきっかけになった」という設問に関して、「そう思う」「どちらかというとそう思う」で 70.42％となっている。

これらの結果から、高校生の意識・関心・動機付けに対して一定程度の効果はあると考えられる。

過去３年間にわたる結果と比較してみても、多少の差異はあるもののほぼ同様の傾向を示している。そのことから、これらのプログラムの有用性が認められる。

なお、自由記載に関しても同様な傾向である。詳細はアンケート結果を参照されたい。

（７）２年次受講生に対するアンケート調査

２年次の栗山と福祉終了後、高校側の協力により参加生徒に対してアンケート調査を実施した。目的は、この一年間の授業に関する全体的な理解度を測るとともに、福祉や介護に対する興味・関心度、今後の進路及び社会人準備性などを問い、その結果から今後の高専一貫プログラム開発・実証事業に反映することを目的としている。あわせて、高校教職員の本授業に対するコメントを自由記載方法でいただくことにした。

調査票および集計結果については、次のとおり

「栗山と福祉」（２年生）振り返りアンケート

（令和７年度）

「栗山と福祉」の二年目を振り返り、以下の質問についてＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄのいずれか一つの欄に〇をつけてください。

（Ａ：そう思う、Ｂ：どちらかというとそう思う、Ｃ：どちらかというとそう思わない、Ｄ：そう思わない）

Ⅰ　福祉・介護への関心（ニ年次の変化）

質　　問　　内　　容	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ
①二年次の「栗山と福祉」の授業を受けたことで、一年次に比較すると福祉・介護に関する興味・関心が高くなった。				

Ⅱ　「栗山と福祉」の二年次を振り返って

質　　問　　内　　容	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ
①高齢者や障害者のことについて一年次よりも理解が深まった。				
②福祉や介護は、人の暮らしに関連していると思うようになった。				
③福祉や介護のことをもっと詳しく知りたいと思うようになった。				
④福祉や介護以外の領域のことも知りたいと思うようになった。				
⑤職業としての福祉・介護について理解が深まった。				
⑥自分の将来（進路）を具体的に考えるようになってきた。				

Ⅲ　二年次の自分自身の変化

質　　問　　内　　容	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ
①福祉や介護の問題を自分に置き換えて考えるようになってきた。				
②これからの社会の課題を考えるようになってきた。				
③地域づくりにおける自分の役割（できること）を考えるようになった。				

【自由記載】

①２年次受講生に対するアンケート調査結果

「栗山と福祉」（２年生）振り返りアンケート

（令和７年度）

「栗山と福祉」の二年目を振り返り、以下の質問についてＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄのいずれか一つの欄に〇をつけてください。

（Ａ：そう思う、Ｂ：どちらかというとそう思う、Ｃ：どちらかというとそう思わない、Ｄ：そう思わない）

Ⅰ　福祉・介護への関心（ニ年次の変化）

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
①二年次の「栗山と福祉」の授業を受けたことで、一年次に比較すると福祉・介護に関する興味・関心が高くなった。	55.1％	34.7％	8.7％	2%

Ⅱ　「栗山と福祉」の二年次を振り返って

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
①高齢者や障害者のことについて一年次よりも理解が深まった。	67.3％	32.7％	0%	0%
②福祉や介護は、人の暮らしに関連していると思うようになった。	75.5％	24.5％	0%	0%
③福祉や介護のことをもっと詳しく知りたいと思うようになった。	46.9％	42.9％	10.2％	0%
④福祉や介護以外の領域のことも知りたいと思うようになった。	49%	38.8％	10.2％	2%
⑤職業としての福祉・介護について理解が深まった。	53.1％	44.9％	2%	0%
⑥自分の将来（進路）を具体的に考えるようになってきた。	61.2％	38.8％	0%	0%

Ⅲ　二年次の自分自身の変化

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
①福祉や介護の問題を自分に置き換えて考えるようになってきた。	55.1％	36.7％	8.2％	0%
②これからの社会の課題を考えるようになってきた。	63.3％	32.7％	4.1％	0%
③地域づくりにおける自分の役割と可能性を考えるようになった。	59.2％	36.7％	4.1％	0%

【自由記載】一部抜粋
・2 年次でより具体的、実践的にこれからの社会にとって必要なことを学べた。特に認知症や障害を持つ方との接し方がわかった。学んだことをこれからの生活に生かしたい。
・人生と福祉の関係が深いことがわかった。自分は野球をやっていて、怪我とかをした経験はまだないですが、それも福祉などでの予防があってこそと感じるようになった。
・自分の進路で一番行きたい所が介護福祉学校なので、高校生に向けたお話と、介護学生に向けたお話の 2 つを聞くことができて良かったです。
・栗山と福祉で福祉や介護について学び多くの事を深く考えて追求して行うことで多くの知識を得る事ができたと思います
・思っていることと実際に起きていることの違いを福祉の授業で学ぶことができた
・特にこれといったものはないが、昔から探求してきたことに対しての理解は深まった。
・2 年間の授業(講話や実習)を通して、福祉全体の関心や理解が深まったと思う。
・３７期生の発表を聞いて自分の勉強のやり方を見つけていこうと思った。
・中学生のときよりも福祉や介護について関心を持つようになった
・福祉についてわかってきた。福祉に関わる仕事をもっと知りたいと思った
・社会の課題、進路についてしっかり考えていきたい
・地域づくりはみんなの協力が必要

②２年次受講生に対するアンケート調査結果より

２年次のアンケートの目的は、一年間の授業に関する全体的な理解度を測るとともに、福祉や介護に対する興味・関心度、今後の進路及び社会人準備性などを問うというものである。結果については、次のとおり

設問Ⅰ－１は「１年次と比較しての福祉・介護に関する興味・関心」である。①そう思う 455.1%、②どちらかというとそう思う 34.7%、③どちらかというとそうは思わない 8.7%、④そう思わない 2%となっている。①および②を合わせると、89.8%の高校生がより興味・関心が高くなったと答えている。

設問Ⅱ－１は「理解の深まり」である。①そう思う 67.3%、②どちらかというとそう思う 32.7%、③どちらかというとそうは思わない 0%、④そうは思わない 0%である。①および②で高校生の全員が理解の深まりを感じている結果であった。

設問Ⅱ－２は「福祉や介護は人の暮らしに関連している」という問いであるが、これらも①そう思う 75%、②どちらかというとそう思う 24.5%と、①と②を合わせると全員が、人の暮らしに関連していることを理解したということになる。

職業としての福祉・介護を理解する問いである設問Ⅱ－５は、①そう思う 53.1%、②どちらかというとそう思う 44.9%で、計 98%が職業としての福祉・介護の理解が深まったと回答している。このことから、高校生が将来の進路・職業として福祉・介護の領域を選択しない結果になったとしても、長期的視点で見れば福祉・介護に関する理解や裾野を広げる要素を持っていると期待できるものである。以降、「自分の問題に置き換えて考察する」、「社会課題への関心」、「自分の役割、地域づくりへの関与」も 91%台の結果となっている。このことから、進路・職業選択、社会人準備性、地域における当事者としての意識の高まりとみることもできる。

（８）３年次受講生に対するアンケート調査

３年間にわたる本プログラム終了時点でアンケート調査を実施した。調査票および集計結果については、次のとおりだが、内容は３年間を振り返るものである。

「栗山と福祉」（３年生）振り返りアンケート

（令和７年度）

「栗山と福祉」の三年間を振り返り、以下の質問についてＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄのいずれか一つの欄に○をつけてください。

（Ａ：そう思う、Ｂ：どちらかというとそう思う、Ｃ：どちらかというとそう思わない、Ｄ：そう思わない）

Ⅰ　福祉・介護への関心（三年間での変化）

質　　問　　内　　容	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ
①三年間「栗山と福祉」の授業を受けたことで、福祉・介護に関する興味・関心が醸成されたと思う。				

Ⅱ　「栗山と福祉」の三年間を振り返って

質　　問　　内　　容	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ
①高齢者や障害者について理解が深まった。				
②福祉や介護は人の暮らしに関連していることを理解した。				
③福祉や介護のことをもっと詳しく知りたいと思う。				
④福祉や介護以外の領域のことも知りたいと思う。				
⑤職業としての福祉・介護について理解が深まった。				
⑥自分の進路選択の参考になった。				

Ⅲ　三年間での自分自身の変化

質　　問　　内　　容	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ
①福祉・介護問題は自分事でもあると考えるようになった。				
②社会の課題に関する視野が広がった。				
③地域づくりにおける自分の役割を主体的に考えるようになった。				
④地域社会の一員として諸課題に取り組む実践力がついた。				
⑤これからも福祉や介護の課題を考える必要があると思う。				

【自由記載】３年間で印象に残った授業の記述でもよい

①３年次受講生、終了時点におけるアンケート調査結果

「栗山と福祉」（３年生）振り返りアンケート

（令和７年度）

「栗山と福祉」の三年間を振り返り、以下の質問についてＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄのいずれか一つの欄に〇をつけてください。

（Ａ：そう思う、Ｂ：どちらかというとそう思う、Ｃ：どちらかというとそう思わない、Ｄ：そう思わない）

Ⅰ　福祉・介護への関心（三年間での変化）

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
①三年間「栗山と福祉」の授業を受けたことで、福祉・介護に関する興味・関心が醸成されたと思う。	55.8％	30.2％	9.3％	4.7％

Ⅱ　「栗山と福祉」の三年間を振り返って

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
①高齢者や障害者について理解が深まった。	69.8%	23.3%	7.0%	0.0%
②福祉や介護は人の暮らしに関連していることを理解した。	67.4%	25.6%	7.0%	0.0%
③福祉や介護のことをもっと詳しく知りたいと思う。	48.8%	37.2%	11.6%	2.3%
④福祉や介護以外の領域のことも知りたいと思う。	46.5%	34.9%	14.0%	4.7%
⑤職業としての福祉・介護について理解が深まった。	60.5%	27.9%	11.6%	0.0%
⑥自分の進路選択の参考になった。	46.5%	25.6%	23.3%	4.7%

Ⅲ　三年間での自分自身の変化

質　　問　　内　　容	A	B	C	D
①福祉・介護問題は自分事でもあると考えるようになった。	74.4%	18.6%	7.0%	0.0%
②社会の課題に関する視野が広がった。	72.1%	16.3%	9.3%	2.3%
③地域づくりにおける自分の役割を主体的に考えるようになった。	55.8%	30.2%	11.6%	2.3%
④地域社会の一員として諸課題に取り組む実践力がついた。	58.1%	23.3%	14.0%	4.7%
⑤これからも福祉や介護の課題を考える必要があると思う。	67.4%	23.3%	7.0%	2.3%

【自由記載】３年間で印象に残った授業の記述でもよい
・栗山駅で行った徘徊訓練が印象に残っている。
・寄り添うことへの印象が変わりました。
・福祉について知れたので良かった。学んだことを生かしていく。
・手話講座の授業では、今後、いざという時に使える実践的な内容で記憶に残りやすかった。
・実習など(車いすやベッドメイキング)
・介護学校訪問
・専門の先生方の話が印象的でした。
・栗山の老人クラブの方々との交流。
・ベッドメイキング
・手話に興味があったのでできて良かった。
・看護の進路に進むことになったので、高齢者との接し方、障碍者との関わり方に深く興味を持ったし、将来に役立つと思った。

②３年次受講生に対するアンケート調査結果より

３年次のアンケートの目的は、３年間にわたる本プログラムを終えての受講生徒の意識を問うものである。結果、本授業を受講したことにより福祉や介護に関する興味関心が醸成されたと実感している生徒が 86%になっている。高齢者や障害者に対する理解、福祉や介護は人の暮らしに関連している等の調査に対しても、類似している傾向がある。社会人準備性を問うものに関しても同様な傾向である。

一方、この授業が進路選択の参考になったかという問いに関しては 72%の生徒と、他の設問よりも低い結果であるが、それでも７割を超える数字がみられている結果からすると、効果があったと評価できるものと言える。ただし、３年間の振り返りアンケートは今回が初めてであるため、次年度も実施して比較検討することにしたい。

（９）アンケート結果に基づく考察

本アンケートは令和５年度からに継続的に実施している。１学年は１年間を振り返ったもの、２年次は１年次の学習を踏まえてさらなる意識変化、進路・職業選択、社会人準備性を問う形、３年次は３年間を振り返るものとしている。

このアンケート結果と、高校生がテーマごとに作成した振り返りシート等をどのように活用するか、また、学内外における学習・演習活動および発表など、より効果的にインプット・アウトプットをどのように行うかは継続検討することが必要である。決まっていることを教える・伝えるだけではなく、社会情勢の変化にも関連付けて考察する、理解を深める、体験する、伝えてみる機会の設定など今後も継続検討が必要である。それらをいくつかを挙げれば、

・高校生・介護学生の気づきの活用
・振り返りシートのフィードバック方法の検討
・気づきによる課題の整理、その後の展開への取り組み

・半学半教体験
・肯定的考察と否定的考察、演繹法または帰納法に基づく理解
などがある。一部であったとしても実際に改善・解決されたりすれば、「町づくり」に関与しているという実感が生まれる。
このようなことを意識したうえで次年度以降の実証授業を取り組む必要性がある。

３　高校教員との関係性の変化

本事業に取り組んだ令和４年度は準備・企画が主たるものとなり、意識して情報交換等を実施してきた。令和５年度はそれぞれの担当教員が随時打合せ、調整を行うようになり関係性が良好な状況となっている。また、双方の人的物的な社会資源を有効活用する例に結びついたものもあった。それらの例を挙げれば、高校体育の授業にアダプテッドスポーツが取り入れられるなど、この「栗山と福祉」に限らず横断的な取り組みと、本事業には直接的に該当しない授業であっても、相互に授業見学するなどの新たな展開もみられた。
令和６年度以降、介護福祉学校教職員が対応する時間も増えたが高校内で学年通信やホームルームなどで学生が発表するなど、内容をより深めるようになってきている。また、高校の教員から、評価・反省・次年度に向けてより内容を充実させるためにと、意見がもらえるようになってきている。また他科目との連動が意識されつつあるという側面もみられている。ただし、細部にまで目を向けると高校の教職員の人事異動もあり、本事業に関するコンセンサスをどのように得るかという、実証事業開始前後に課題となったこともみられた部分がある。なお、令和６年度までは年度当初には意見交換および打合せ、その後は各回の授業担当者による打合せのみとしていたが、令和７年度からは全体での打合せを定期的に実施し、メーリングリストで随時情報共有を図るようにしている。

（１）実証事業に関与した高校教員のコメント

①　連絡調整方法に関して
これまでの評価・反省を踏まえ、
・各回の授業を担当する教職員のみならず、全体的にかかわりを持つ者の間でグループ化したメールで情報を共有したことで全体と各授業の確認ができた。
・事前に授業計画、資料、配布スライドも確認できるようになり良かった。

②　授業内容に関して
・各授業の内容と単元としての連動性がこれまで以上に明確になっている。例としては、人権に関する内容では、ハンセン病についての事前学習～映画「あん」（ハンセン病を題材にしたもの）～ハンセン病資料館学芸員による講演
・認知症に関する理解～認知症 VR 体験～認知症サポーター養成～徘徊模擬訓練（言葉かけ訓練）～認知症サポーターステップアップ～認知症グループホームでの実践～認知症の医療、そして成年後見制度（講談で学ぶ成年後見制度）等、誰もが知っ

ておくべき内容である。なお、生徒の中には、実際に認知症の方が迷っている場面で言葉をかけることができたとの報告例もあった。

③高校生と介護学生の合同演習
・合同による演習はこれまでも実施しているが、合同での討議が今回幾度となくなされていたが、議論の深まりと広がりももちろんだが、互いに刺激しあっている様子がある。副産物で完成しているスキーム（小中高生と介護学校を通した一貫した福祉教育）の中で、高校生も小中学生に対するロールモデルになり得ることができる可能性がある。
以上のようなコメントも寄せられていりる。

４　本事業の取り組みの課題

これまで実証授業を実施しながら随時カリキュラムに修正をかけ、本年度の３学年全体を見通したカリキュラムに基づき実証授業を行い、それに基づき令和８年度のカリキュラムも同時に作成した。そのことで、全体像が俯瞰できるものも作成した（前述　表１）。

一方､社会情勢の変化､福祉･介護現場の ICT 化､LIFE(Long-term care Information system For Evidence) などのデジタル活用、福祉・介護現場の生産性向上、SDGｓ・SWGｓも含め、今後も変化が予想できることから、時代の情勢を踏まえつつ内容の検討・調整・変更が必要になることを理解しておかなければならない。そのための、情報収集、連絡調整、高校・介護福祉学校・関係者等によるコンセンサス理解のための意見交換、定期的な打合せ会議の実施が求められる。

次年度は、本事業の最終年となることから、令和９年度以降を見据え本プログラムの継続に向けた担当者・協力者等との打合せが必須になる。

本町及び介護福祉学校は「介護人材確保に関する包括連携協定」を北海道内で進めている（本年度末で 24 自治体、１社会福祉法人と協定を締結している。令和８年度末で 30 を見込んでいる）。すでに本プログラムを活用した出前講座等を実施しているが、これまで同様に高専一貫による垂直的展開のある有機的連携による教育に加え、地域軸・時間軸の差異にあわせて段階的にこの取り組みに関する情報発信、取り組み内容のオープンソース化、再現可能性の検証などを行い水平展開も行うことが必要と考えている。

（１）事業の内容と実施に関して

①アウトライン・スキームの確認と共有

・高校・関係団体等と本事業の目的・全体像、内容等に関する確認・調整
・管理職・担当者との関係づくりと新たな協力者の確保
・地域の実態把握と、課題解決方法 に関する 学習についての検討
・社会情勢の変化、福祉・介護現場の業務内容の変化等に関する情報収集
・専門職の給与条件、キャリアアップ等に関する高校教員等との情報共有
・情報の集約点化と発信点化

・（高校内での）縦系列による展開と他科目・学校行事等との連動
・小中高専の連携による、一貫した福祉教育との連動と拡大
（次年度、幼保小中高介護学校での連携について協議している）

②実施に向けた調整
・学校行事計画とのすり合わせ、相互理解の促進
・高校側と実施時期、内容等に関する調整が随時必要
・合同授業における学校行事・授業展開等を考慮しての実施
・授業時間の調整（高校は 1 コマ 50 分、養成校は 1 コマ 90 分）
・カリキュラム変更への対応

③教職員のサポート
・教職員の負担感の軽減
・人事異動（担任・担当教員、進路指導部）を視野に入れる

④実証授業の普遍化への取組み
・実証授業、合同授業等の内容を他校・他地域でも再現できるよう、準備の方法、時間配分、必要物品、実施手順、配慮する内容などを整理し、参考資料として小冊子を作成
・小冊子の配布状況と活用状況の確認

⑤専修学校の立ち位置形成
・事業実施による、情報の集約点と発信点機能の明確化
・福祉・介護の視点からのキャリア形成教育への連動性
・専門職養成教育内容との連動性
・社会情勢変化における地域づくりへの関与の視点
・地域の中で活躍する人材養成への関与

（２）高校生・介護学生がともに感じるワクワク感
・高校生、介護学生との合同授業の継続実施
・専門職のキャリアアップ方法、就労状況等に関する学び
・福祉・介護専門職（若手）も交えた演習機会の創出
・介護学生や若手専門職、高校生をロールモデルに
・介護学生および高校生は半学半教の経験
・介護職員初任者研修や、国家資格取得への動機づけ
・福祉・介護と関連する領域との調整

（３）垂直展開と水平展開に向けた整理
・自治体包括連携協定等を軸にした水平展開
・取り組み事例集の作成と配布

・北海道教育委員会、福祉担当部局からの協力・助言
・高等学校家庭科教員（部会）、福祉科を有する高校への情報提供
・編入可能大学等との連携
・関連資格に関する情報収集など

５　まとめ

令和５年度に開発した高専一貫プログラムに修正を加え実証授業を実施した。過去３年間にわたり実施授業の検証→修正→企画調整→実施・内容修正といったPDCAを意識した取組を展開してきた。本事業は、３年間を見据えたプログラムであることから、実施するのと同時により内容の高いカリキュラムへと変化させている。今後も同様の取り組みを実施することにしたい。しかし、社会情勢の変化、人口の構造的変化、地域における差異、業界内外のDX化、資産性向上、GIGAスクールなど、様々な情報を収集しながら対応することが必要である。そのことから、PDCAサイクルに基づく展開だけではなく、RV-PCDSSSという視点も必要になる。

受講した高校生の福祉・介護に対する意識の変化、動機付け、社会人準備性、知的好奇心への影響などの把握は継続してアンケート調査を実施し、学習による経年変化を調査するとともに、３年次の総合的な評価も継続する。

本校は「地域活動研究」「キャリア形成支援講座」を学校設定の独自科目として栗山町をフィールドとした社会資源の活用も含めた教育活動を行っている。高校生もそれらの授業に参加し実証授業としていることから、今後も本事業の目的である「地域の中核的人材育成」をより意識して展開し、毎年のスキーム作りが結果的にパラダイム転換に結びつくことが求められていると考えることもできる。

これまで介護学生が高校生のロールモデルになり得ていることから、受講している高校生も今後、中学生へのロールモデルになることも期待できる。

介護学生も高校生も半学半教（学ぶ立場でありながら、教える立場も経験）の機会になりえるとなれば、単に「栗山と福祉」の授業展開に終始するのではなく、キャリア形成に関連付けする方法、具体的な進路選択・職業選択を模索すること、さらには第６次産業の視点も含める余地も課題として残されている。

高校・専門学校の連携と一貫したプログラムを軸に、本町まちづくりの主要拠点である「北海道介護福祉学校」が核となり、福祉・介護の視点を活かした教育から地域における将来の介護人材の発掘育成を図り、介護人材が定着する環境づくりまでにも貢献することで学校の存在価値を発揮、地域ニーズに呼応する学校へ深化しなければならないことも明確になっている。

本事業で開発する地域での「介護人材養成に向けたキャリア形成プログラム」の実践により、介護人材不足の解決はもとより、福祉教育を通して身に付けることができる豊かな人間性を育む人材養成を行い、社会情勢、人口構造が変化する社会、また、差異がますます生じる地域において中核的に活躍できる人材の輩出を実現できることを目標に、今後も高専接続カリキュラム開発と検証・改善を行うことが求められると考察できる。

＜成果報告書＞

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、北海道栗山町が実施した令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。